

令和元年度 日南町・鳥取大学 連携事業報告書



鳥取大学・日南町
連携事業ワーキンググループ会議

令和2年6月

【目次】

鳥取大学理事あいさつ	1
日南町長あいさつ	2
鳥取大学・日南町連携事業ワーキンググループ座長あいさつ	3
令和元年度鳥取大学・日南町連携事業報告	4
1. I. 鳥取県における公共建築物への木材利用に関する研究	5
鳥取大学工学部社会システム土木系学科（浅井秀子准教授教室） 相木優	
II. 鳥取県における公立小学校の用途転換と活用に関する研究	13
鳥取大学工学部社会システム土木系学科（浅井秀子准教授教室） 大槻圭太郎	
2. 「学びのルネサンス」～子どもたちとの交流を通して学生たちが学んだこと～	24
地域学部人間形成コース2年 千賀咲樹 田中悠稀	
地域学部附属子どもの発達・学習研究センター教授 小林勝年	
3. 鳥大生による日南町の事業レビュー～地方創生政策体験学習の取り組み～	31
工学部助教 長曾我部まどか	
令和元年度鳥取大学・日南町連携事業実績報告	41
【教育・文化】	
1. にちなん ふる里まつりに連携する出前科学実験教室の開催	41
（技術部化学バイオ・生命部門技術長 八島 正司 / 教育委員会との連携）	
2. 国際理解講座「外国の文化に触れよう」	42
（国際交流センター准教授 御館久里恵 / 日南町図書館 浅野主任司書）	
3. とっとり暮らし早期体験学習	42
（地域価値創造研究教育機構 教授 清水克彦 企画課 牧主事）	
4. 「町制 60 周年記念イベント」において	
鳥取大学ジャズ&フュージョン研究会が演奏	43
（地域価値創造研究教育機構 教授 清水克彦 / 総務課との連携）	
5. まちおこしイベント「にちなん日和 2019」において	
鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルが演奏	43
（地域価値創造研究教育機構 教授 清水克彦 /	
農林課（にちなん日和実行委員会）との連携）	
6. 地方創生政策体験学習	44
（工学部助教 長曾我部まどか / 企画課牧主事）	
7. 鳥取大学・日南町連携講座として「にちなん町民大学」を開催	44
（鳥取大学教員 / 教育委員会）	
8. 日南小学校「サマースクール」	44
（鳥取大学地域学部 小林 教授、武田 准教授 / 教育委員会）	
9. 日南小学校「児童の内面と学級風土の分析」	45
（鳥取大学地域学部小林教授 / 教育委員会）	
【産業・環境】	
10. 林野庁新規モデル事業への協力	46
11. 日通共生の森10周年記念事業	49
（農学部 / 農林課・企画課）	
12. 日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の評価	50
（鳥取大学（日置研究室）とにちなんエコツーリズム推進協議会との共同研究）	
【医療・福祉】	
13. ハッソーケアの有用性について	50
（医学部教授 山本美輪、教授 中條雅美 / 日南町地域包括支援センター、企画課	
令和元年度までの主な経緯	51

ごあいさつ

日南町と鳥取大学は、平成18年に「鳥取大学・日南町地域活性化教育センターに関する協定」、また翌19年に「職員の研修派遣に関する協定」を締結して以来、環境や教育等様々な分野で連携事業を行ってまいりました。

令和新時代がスタートした今年度は、町制施行60周年という日南町にとっても正に新しい門出の年でありました。皆様と一緒に寿ぐとともに、鳥取大学の学生も祝いのセレモニーに参画させていただきましたこと心より感謝申し上げます。



鳥取大学理事
(地域連携担当)・
副学長
藪田 千登世

今日に至るまで10余年の間、日南町と鳥取大学とで協働して取り組んでまいりました「とっとり暮らし早期体験学習」や「地方創生政策体験学習」の他、今年度は新たに産官学が連携した「日通共生の森10周年記念事業」も執り行うなど、連携事業も一層の広がりをみせてきています。

本来であれば、これらの成果を例年のように「鳥取大学・日南町連携事業報告会」として地域の皆様に広くご報告させていただくべきところですが、世界的に猛威を振る新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、多くの方が集う報告会の形ではなく、ホームページ上での公開報告に代えさせていただくこととしました。地域の皆様に直接発表を聞いていただけないのは大変残念ですが、鳥取大学の教員や学生が日南町をフィールドにどのような活動を行っているかご覧いただけたら幸いです。

最後になりましたが、連携事業を支えていただきました地域や関係団体の皆様、そして中村英明町長はじめ何度も鳥取大学まで足を運び熱心に協議を重ねる等事業実施に御尽力いただきました日南町職員の皆様に心より御礼申し上げますとともに、日南町と鳥取大学の連携事業が今後益々発展いたしますことをご祈念申し上げます。

令和2年6月

ごあいさつ

鳥取大学と本町との連携事業も 13 年目を迎えました。

今年度も日南町をフィールドに様々な事業を展開していただいたほか、町制 60 周年記念式典においては、鳥取大学の学生の皆さんにも参加いただき花を添えていただきました。さらに本町で長年に亘り環境保全活動を継続して来られた、日本通運との共生の森事業が 10 周年を迎えるにあたり、鳥取大学の皆さんにもご協力をいただきました。



日南町長
中村 英明

例年ですと、年間の活動を「鳥取大学・日南町連携事業報告会」として開催し、町民の皆さんに報告をさせていただくところではありますが、新型コロナウイルス感染拡大による政府からのイベント自粛要請を受け、また町民の皆さんの健康を第一に考え、2月29日に開催を予定しておりました報告会は、中止とさせていただきました。また、再度の開催についても困難と判断し、今年度についてはホームページ上に報告内容を公開することで発表にかえさせていただくこととしました。町民の皆様には何卒ご理解をいただければと思います。

平成から令和へと時代が移り変わり、日本の30年後に行く日南町として、「持続可能なまちづくり」に挑戦してまいります。この挑戦に、鳥取大学の皆さんには、引き続きお力添えをいただければと思っております。

最後に、本日に至るまで本町と鳥取大学との連携事業に関わり、ご支援、ご協力いただきましたすべての皆さんに改めてお礼申し上げます。

令和2年6月

座長あいさつ

コロナ後の日南町

いま、コロナウイルスが世界を席卷しています。たった半年前には想像すらしていなかった災厄に、私たちが、そして社会全体が否応なしに巻き込まれてしまいました。

過去のパンデミック（pandemic、感染症の世界的な大流行）は、歴史をも大きく変えました。14世紀半ばに欧州で大流行した黒死病（ペスト）は、3人に1人が亡くなる高死亡率で人口が激減し、キリスト教が絶対的権威を持っていた中世を終わらせ、ルネサンスが始まるきっかけになったと言われます。また、1918年のスペインカゼは、アメリカの欧州派遣軍からまたたくまに世界全体に拡がり、各国とも戦争の続行が困難になりました。第一次世界大戦は、いわば伝染病による強制終了のような形で終わったのでした。

今回のコロナ禍も社会のあり方を、根本から変えてしまう可能性があります。しかし、それがどのような形になるのか、いまは誰にもわかっていません。ただ、感染が収まっても、コロナ前とは同じ社会には戻らないことが予想されます。グローバル化は、冷戦終了後の世界の方向性でした。これは、ヒト・モノ・カネが自由に活発に動き回ることを前提としていました。パンデミックでこうした前提が崩れると、海外からの大量の観光客来訪はなくなり、国際分業も難しくなります。自由に行き来できるのは、インターネットを介した情報だけという状態になるかも知れません。

価値観の180度転換も、いとも簡単に起きてしまいます。過疎は、従来良くないとされてきましたが、過密による感染拡大が指摘された今、かえって良いことと考えられます。情報通信技術を使った在宅・遠隔地勤務が一般化すると、日南町のような自然に恵まれた過疎地に住んで仕事をしたいと思う人が増える可能性もあります。現在は、感染拡大防止のために人の往来が制限されていますが、感染がおさまった後には、居住地の分散化指向が起きるかも知れません。

町と大学の連携事業も、コロナ後の社会を考えながら進めていきたいと思えます。



鳥取大学・日南町連携事業
ワーキンググループ会議
座長
日置佳之

令和2年6月

令和元年度鳥取大学-日南町連携事業報告概要

1. I. 鳥取県における公共建築物への木材利用に関する研究 II. 鳥取県における公立小学校の用途転換と活用に関する研究

- I. 近年、地球環境配慮の観点から、日本では建築物への木材利用を促進するための法律を整備している。国に先立って県産材利用を推進してきた鳥取県や日南町における公共建築物への木材利用の現状を明らかにすることで、今後の木材利用の促進に繋げる目的とする研究を行った。県及び各市町村から収集したデータを分析した結果、木材使用量や工期の長さでは劣るが、建築費の面での優位性があることが明らかになった。
- II. 近年、少子化や過疎化による児童数の減少、市町村合併による廃校や廃校舎の扱いが問題とされている。そこで、日南町をはじめ鳥取県各市町村の公立小学校廃校を対象に室ごとの活用の傾向や特徴を明らかにする。各市町村から情報提供された公立小学校の廃校前後の図面を基に活用状況を分析した結果、各地域における活用に特徴があることが分かった。

(報告者) 鳥取大学工学部社会システム土木系学科 (浅井秀子准教授教室)
相木優 大槻圭太郎

2. 「学びのルネサンス」～子どもたちとの交流を通して学生たちが学んだこと～

地域学部2年生が「日南町の子どもたちとの交流を通して中山間・過疎地域の教育を考える」をテーマに集った学生たち6名の1年間の活動報告をいたします。8月8日に教育委員会主催のサマースクールにボランティアとして参加したことをきっかけに、11月より毎月、日南小学校へ学習支援に通わせていただきました。当初、学生たちは返ってきた、問題が出されるとすぐに答えを丸写しするような子どもの様子を見て、ただ唖然としていましたが、「自分にもそんな気持ちになった時代があった」とか「さぼりたい気持ちもわかるけど・・・」とか、将来教壇に立つ自分の姿と過去の子どもの時代への回想を織り交ぜ、大学に戻ってきてはゼミ室で徹底的な討論を重ねてきました。

そこで、発見したのは疎外された学びから離れ、再びジブンの意味のある活動へと誘う「対話」という教育技術と子どもたちの「主体性」への尊重でした。

(報告者) 地域学部人間形成コース2年 千賀咲樹 田中悠稀
地域学部附属子どもの発達・学習研究センター教授 小林勝年

3. 鳥大生による日南町の事業レビュー～地方創生政策体験学習の取り組み～

日南町において2017年から実施している「地方創生政策体験学習」の取り組みについて紹介します。この授業では、県内自治体の地方創生事業について、鳥大生が必要・有効性・効率性・公平性の観点から事業レビューを行います。受講生は夏休みの数日間、各自治体に滞在し、自治体職員や事業者、住民に対し事業に関するヒアリングを行います。今回は、2018年「旧木下邸利用推進事業」と2019年「多里地域のまちづくり」の事例を取り上げ、学生目線の事業レビューの結果や体験学習の感想をご紹介します。

(報告者) 工学部助教 長曾我部まどか

鳥取県における公共建築物への 木材利用に関する研究

鳥取大学工学部社会システム土木系学科
建築環境工学研究室
相木 優

目次

- 背景と目的
- 既往研究との位置づけ
- 研究方法
- 研究結果
 1. 工事件数
 2. 建物用途の割合
 3. 延床面積一木材使用量の傾向(用途別)
 4. 延床面積でみた階数と木材利用の関係
 5. 地域別でみた木材利用の傾向
 6. 相関関係
 7. 原単位による全国との比較
- 結論
- 参考文献

背景と目的

全国的な背景

- 公共建築物への木材利用による木材の需要拡大
- 炭素吸収源としての森林の適切な整備
- 伐採した木材の有効活用

2010年「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」

鳥取県 2008年「鳥取県産材利用推進指針」

しかし、なかなか取組が進まないのが現状…

- 建設コスト、構造的・防火的な規制
- 木材利用の際に必要な木材の性質や地域材に関する情報の未整備
- 中大規模の木造建築を経験しているところが少ない

鳥取県における公共建築物への木材利用の現状を明らかにすることで、今後の木材利用の促進の一助になることを目的としている

1

既往研究との位置づけ

公共建築物の木造・木質化における使用箇所ごとの木材利用量について

渡邊らは、全国の公共建築物の使用箇所ごとの木材利用の実態について原単位を作成することによって明らかにしている

中大規模木造建築への地域材利活用について

齋藤らは、北海道における地域材利活用の現状と、地域材を活用した中大規模木造建築の技術的な課題や普及拡大に向けた課題等を明らかにしている

地域材の活用実態について

牧らは、埼玉県の各自治体の取組体制の実態と、各市町村で製材や木材調達の具体的な取組を決定することが課題であることを明らかにしている

特定の用途の公共施設の木材利用について

阿部らは、福島県の学校教育施設を対象に、木材の利用実態と、今後木材の防火性や安全性に関わる欠点を改善することが重要な課題であることを明らかにしている

各自治体の木造化への対応や、木材の生産状況が地域によって異なる状況の中で、鳥取県における木材利用の現状については明らかになっておらず、その点で本研究は有意である。

2

研究方法

調査対象

- 鳥取県内の公共建築物
- 構造形式は非木造および木造
- 事業主体が県または市町村
- H20年8月～H31年3月までの期間で工事が行われたもの

調査方法

県及び19市町村にメールにて調査シートを送り、右表の各アンケート項目についてのデータを元に、鳥取県における公共建築物への木材利用の傾向を分析する

表1. アンケート調査の概要

調査方法	メール配布
調査期間	2019年8月5日～
アンケート配布先	鳥取県内19市町村
回収率	78.9% (15/19)
アンケート項目	1) 事業名 2) 事業主体
	3) 施設名称 4) 施工業者
	5) 設計業者 6) 設置場所
	7) 構造 8) 階数
	9) 延床面積 10) 建築費
	11) 工期 12) 木材総使用量
	13) 県産材使用量

研究結果

1. 工事件数

非木造形式は平成20～30年度にかけて比較的に変わらないが、木造形式は「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行された平成22年度を境に増加した状態が続いている。

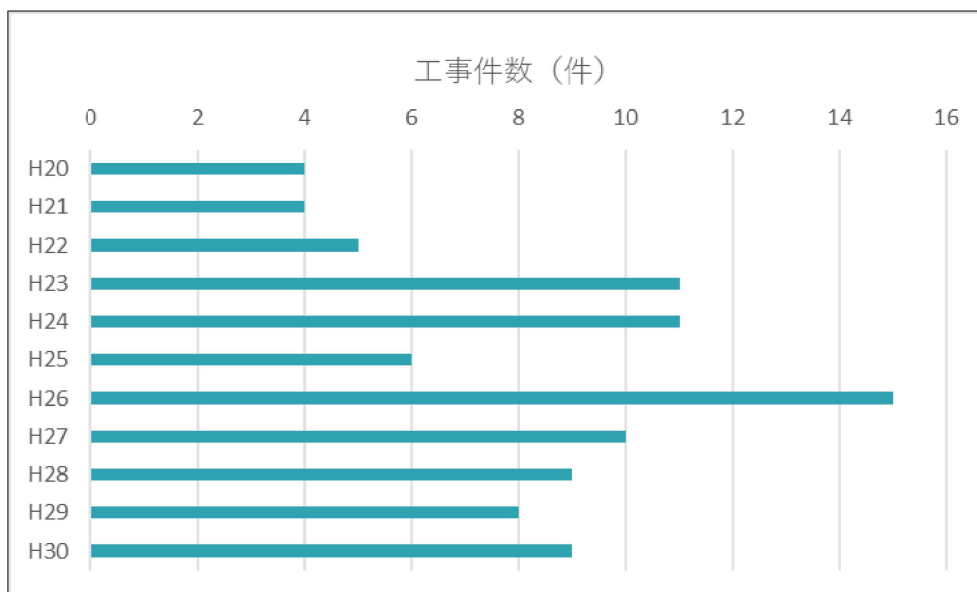


図1. 木造形式の公共建築物の年度別工事件数 (N=92)

2. 建物用途の割合

非木造・木造ともに庁舎や公営住宅、警察署といった**公共サービス施設が多い**

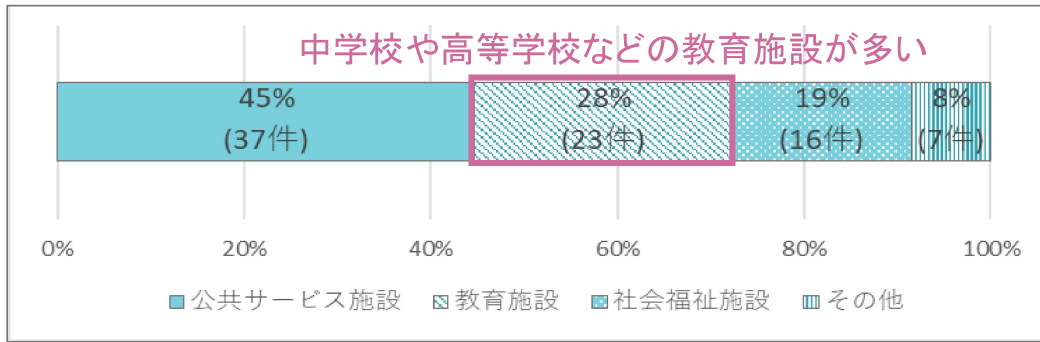


図2. 非木造形式における建物用途の割合 (N=83)

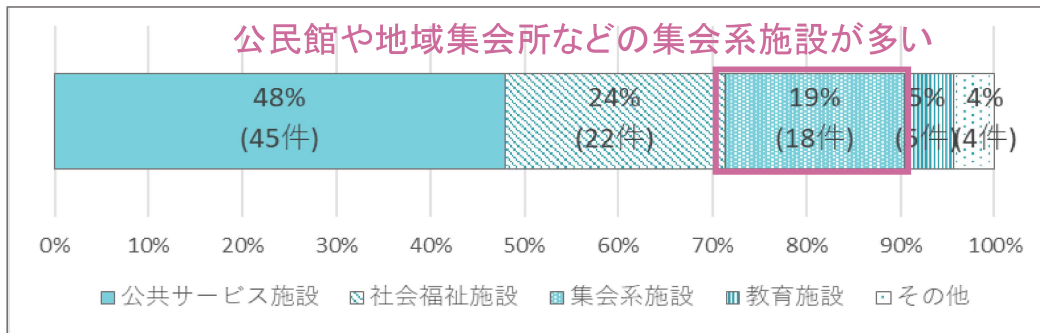


図3. 木造形式における建物用途の割合 (N=94)

研究結果

5

3. 延床面積一木材使用量の傾向(用途別)

図4. 非木造の延床面積300㎡以上3000㎡未満(N=57)

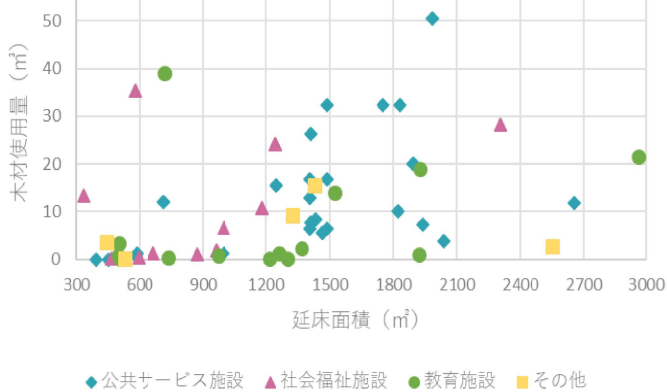


図6. 木造の延床面積3000㎡未満(N=94)

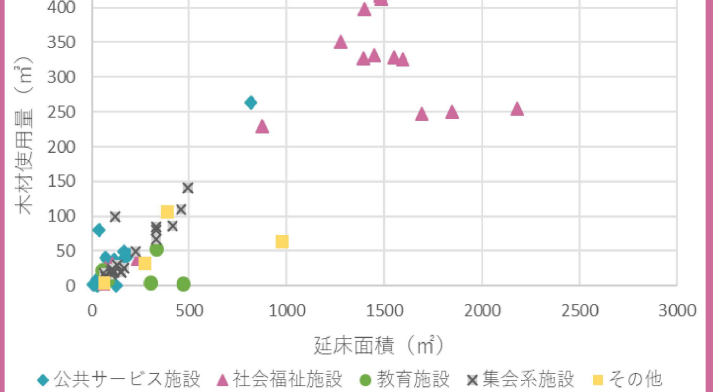
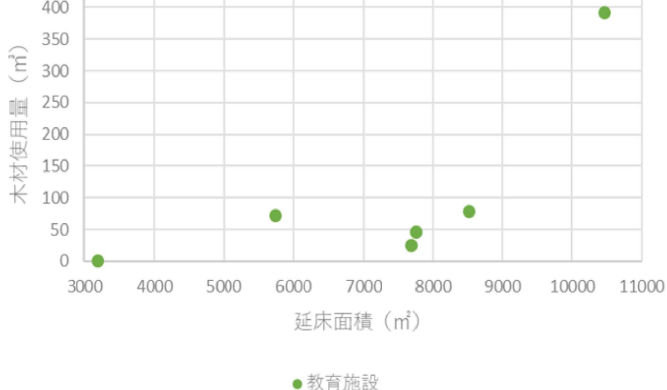


図5. 非木造の延床面積3000㎡以上(N=6)



- 非木造と木造の共通点として、**比較的低層の公共サービス施設や社会福祉施設**に木材が利用されている
- 大規模な建物で木材が利用されているのは、**教育施設のみ**
- 木造に大規模の公共建築物はなかった

研究結果

6

4. 延床面積別でみた階数と木材利用の関係

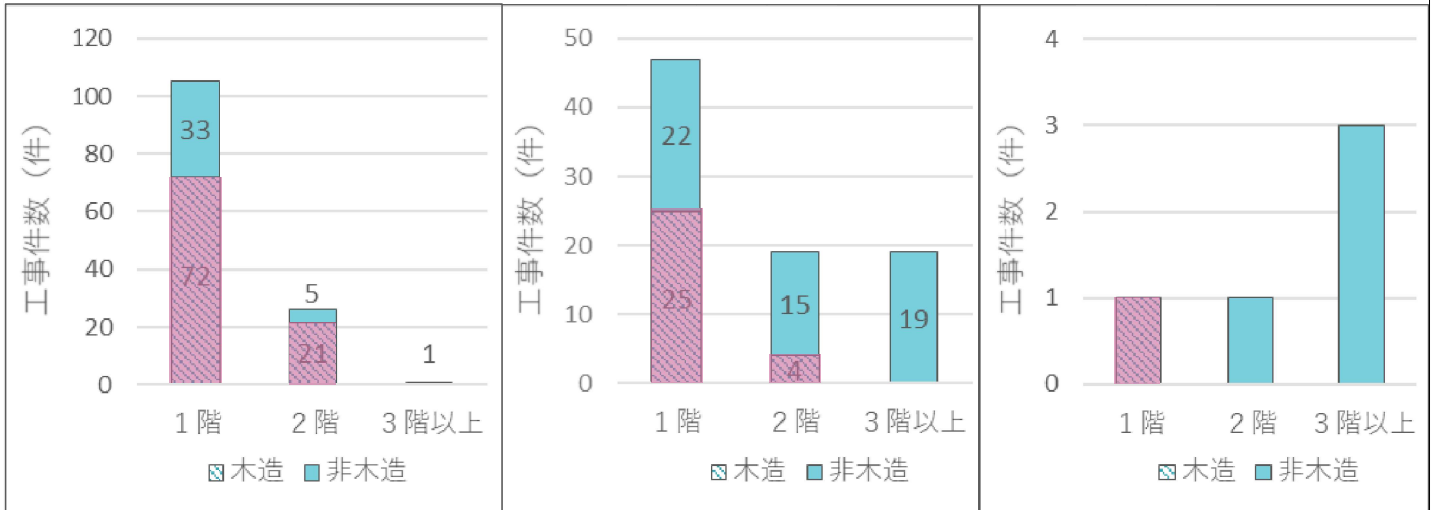
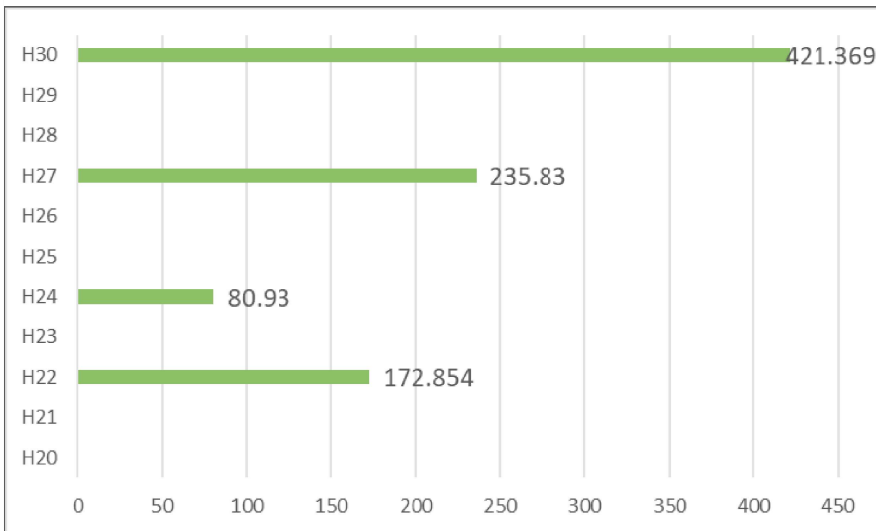


図7. 階数別木材利用件数(左から延床面積300㎡未満, 300㎡以上3000㎡未満, 3000㎡以上)

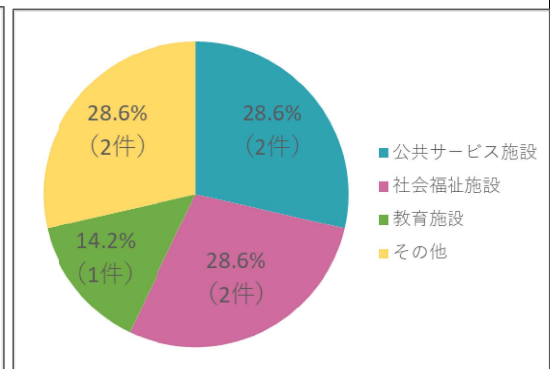
- ・ 木造形式は2階建てまでしかない
- ・ 3階以上と規模が大きくなると非木造の木質化

5. 地域別でみる木材利用の傾向

日南町



日南町における各年度の木材使用量 (m³)



日南町における公共建築物への木材利用の用途割合

工事件数は少ないものの、木材利用量は増加傾向にあり、様々な用途の公共建築物に対して、積極的に木材を利用していることが分かる

4市の傾向

表3. 4市の各年度の木材総使用量(m³)

4市	鳥取市 (N=8)	倉吉市 (N=18)	境港市 (N=13)	米子市 (N=4)
H20	0	0	3.57	0
H21	0	0	0	0
H22	0	0	0	0
H23	0	0	21.7	54
H24	0	35.31	0	0
H25	0	0	114.2	17.27
H26	0	33.77	41.18	0
H27	0	86.71	2.2	63.9
H28	66.86	0.82	20.16	0
H29	306.59	19.99	0	5.33
H30	136.96	24.2	25.26	0

...最も多い
 ...2番目に多い
 ...3番目以降

表4. 4市の木材利用の用途割合(%)

	公共サービス	社会福祉	教育	集会系	その他
鳥取市 (N=8)	0.0	25.0	0.0	62.5	12.5
倉吉市 (N=18)	28.0	44.4	11.1	5.6	11.1
境港市 (N=13)	54.0	0.0	15.4	30.8	0.0
米子市 (N=4)	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0

市の規模では、木材を利用した公民館などの集会系施設の建設が進んでいる

8町の傾向

表5. 8町の各年度の木材総使用量(m³)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
岩美町	0	0	229	0	0	126	12	0	114	0	0
琴浦町	0	9	0	23	0	350	0	0	0	0	0
大山町	33	0	0	247	0	251	0	0	0	0	0
北栄町	0	0	0	254	0	0	0	0	0	8	10
三朝町	0	0	0	0	398	0	132	0	0	0	0
八頭町	0	0	0	53	82	0	572	0	379	0	538
湯梨浜町	0	0	49	326	0	15	329	0	0	0	411
日南町	0	0	173	0	81	0	0	236	0	0	421
日野町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表6. 8町の木材利用の用途割合(%)

	公共サービス	集会系施設	社会福祉施設	教育施設	その他
岩美(N=5)	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0
琴浦(N=3)	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
大山(N=3)	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
北栄(N=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0
三朝(N=3)	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
八頭(N=15)	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
湯梨浜(N=7)	42.9	0.0	28.6	28.6	0.0
日南(N=7)	28.6	0.0	28.6	14.3	28.6

全ての町で木材を利用した社会福祉施設が建設されている

6. 相関関係

木材使用量、工期、建築費の各データと延床面積の相関係数を求め、単位面積当たりの数値を算出することが有意であるかを確認する。

* 対象は、スミルノフ・グラブス検定を用いて、有意水準5%の両側検定により、外れ値を除外する

$$r = \frac{S_{xy}}{\sqrt{S_x S_y}}$$

x : 木材使用量[m³], 工期[日], 建築費[千円]
 y : 延床面積(単位面積)[m²]
 S_x, S_y : x, y の標準偏差 S_{xy} : x と y の共分散

表7. 各データと延床面積の相関関係(木造)

	単位	延床面積との 相関係数r	延床面積との 相関性
木材使用量	m³/m²	0.87	強い相関
工期	日/m²	0.79	強い相関
建築費	千円/m²	0.89	強い相関

表9. 相関係数の評価基準

rの範囲	相関性
0 ≤ r ≤ 0.4	弱い相関
0.4 ≤ r ≤ 0.7	相関あり
0.7 ≤ r ≤ 1.0	強い相関

表8. 各データと延床面積の相関関係(非木造)

	単位	延床面積との 相関係数r	延床面積との 相関性
木材使用量	m³/m²	0.63	相関あり
工期	日/m²	0.61	相関あり
建築費	千円/m²	0.89	強い相関

木材使用量、工期、建築費は全て延床面積と相関性があることが分かった

7. 原単位による全国との比較

表10. 鳥取県の公共建築物への木材利用における原単位の算出結果(木造+非木造)

項目	母平均の区間	平均値	中央値	サンプル数
木材使用量 [m ³ /m ²]	0.0996 ≤ μ ≤ 0.2064	0.1530	0.0987	N=198
工期[日/m ²]	2.0486 ≤ μ ≤ 2.2165	2.1325	0.4930	N=137
建築費[千円/m ²]	205.6 ≤ μ ≤ 449.2	327.4	204.0	N=248

表11. 全国の公共建築物への木材利用における原単位の算出結果

項目	母平均の区間	平均値	中央値	サンプル数
木材使用量 [m ³ /m ²]	0.1730 ≤ μ ≤ 0.2166	0.1948	0.1999	N=123
工期[日/m ²]	0.3422 ≤ μ ≤ 0.4633	0.4027	0.2709	N=121
建築費[千円/m ²]	238.4 ≤ μ ≤ 291.9	265.2	249	N=125

- 全国と比較した結果、鳥取県は単位面積当たりの木材使用量は少なく、工期は長く、建築費は高いと推定できる

結論

鳥取県における公共建築物への木材利用の現状

1. 工事件数に関して、木造形式において、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行された平成22年度を境に増加した状態が続いていることが明らかになった。
2. 用途別にみると、非木造・木造ともに公共サービス施設が多い。非木造は教育施設が多く、木造は集会系施設が多い。
3. 延床面積の規模と木材使用量の関係について、非木造と木造の共通点として、公共サービス施設や社会福祉施設などの比較的**低層の建物が多い**。大規模な建物で木材が利用される公共建築物としては、教育施設のみで、**木造の中大規模公共建築はない**。
4. 公共建築物の階数と木材利用の関係について、**木造は2階建てまでしかなく、規模の大きい3階以上では非木造で木質化を行うという傾向がある**。
5. 地域別の木材使用量について、近年は**東部が多い傾向**にあり、**市では集会系施設が、町では社会福祉施設に木材利用が多い**。
6. 木材使用量、工期、建築費は全て延床面積と**相関性がある**ことが分かった。
7. 全国と比較した結果、鳥取県は単位面積当たりの**木材使用量は少なく、工期は長く、建築費は高い**と推測できる。

鳥取県においては、国の法律が施行されて以降、木材を利用した公共建築物の建設は増加している。中大規模の建物はまだ木材利用が進まない状況ではあるが、主に低層で規模の小さい公共サービス施設や社会福祉施設、集会系施設を中心に積極的に木材の利用を進めていることが明らかとなった。

⇒ 今後の展望としては、使用箇所ごとの木材使用量や地域材の生産体制を調べ、より具体的な木材利用の現状を把握する必要があると考える。

参考文献

1. 日経 xTECH: 欧州の歴史から学ぶ, 持続可能な木造文化, 2019年4月8日, <https://tech.nikkeibp.co.jp/atcl/nxt/column/18/00461/032600018/?P=1>, 2019年12月22日 参照
2. (一財)日本木材総合情報センター:なぜ木材利用を進めるのか, 平成13年3月, <http://www.jawic.or.jp/riyohou/mnl.php?id=1>, 2019年11月26日 参照
3. 建設総合ポータルサイト けんせつPlaza: 特集記事資料館: 公共建築物における木材利用取り組み状況等について, 2017年12月25日, <https://www.kensetsu-plaza.com/kiji/post/18361>, 2019年11月26日 参照
4. 林野庁: 公共建築物における木材の利用の促進に関する法律, 令和元年11月1日, <http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/koukyou/>, 2019年11月26日 参照
5. 鳥取県公式サイト/とりネット/森林・林業振興局/県産材・林産振興課/鳥取県産材利用推進指針, 平成30年3月, <https://www.pref.tottori.lg.jp/245873.htm>, 2019年11月27日 参照
6. 筒井総一郎, 桂英昭, 菊池健太郎:「熊本県下の木材利用学校施設における木材活用状況に関する研究」, 日本建築学会九州支部研究報告 第54号, 2015年3月
7. 阿部恵利子, 北川圭子:「福島県の公共施設における木材利用に関する調査研究 ～小学校・中学校・福祉施設・保育所～」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), 2011年8月
8. 渡邊健斗, 矢口彰久, 高口洋人:「公共建築物における木造・木質化による使用箇所別の木材利用」, 2017年度日本建築学会関東支部報告集Ⅱ, 2018年3月
9. 田代大賀, 板垣直行:「秋田県における地域材を活用した公共建築物の木材利用の傾向分析」, 日本建築学会東北支部研究報告集構造系第81号, 平成30年6月
10. 山本真平, 内田文雄:「山口県における公共建築への地域材活用の実態に関する研究」, 日本建築学会中国支部研究報告集 第38巻, 平成27年3月
11. 牧奈歩, 樋口貴彦, 長澤悟, 浦江真人:「埼玉県の公共建築物における地域材活用の実態と課題に関する考察」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), 2012年9月

参考文献

12. 後藤賢治, 小林久高, 中野茂夫:「島根県の木造公共建築物における生産体制と地域産材利用状況」, 日本建築学会技術報告集 第22巻 第50号, pp269-274, 2016年2月
13. 齋藤茂樹, 渡邊和之, 糸毛治, 宮内淳一:「北海道における中大規模木造建築物への地域材利活用に係る現状と課題について ～発注者及び設計者に対するヒアリング調査～」, 日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), 2016年8月
14. 林野庁: 公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律について <https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/koukyou/attach/pdf/index-43.pdf>, 2019年12月22日 参照
15. 鳥取県公式サイト: とりネット: 森林・林業振興局: 県産材・林産振興課: 県産材の利用促進, <https://www.pref.tottori.lg.jp/100541.htm>, 2019年12月22日 参照
16. 鳥取県: 鳥取県産材利用推進指針, 平成30年3月, https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/964760/H30.3kaitei_kensanzairiyousisin.pdf, 2019年12月22日 参照
17. 鳥取県公式サイト: とりネット: 県の概要, <https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=1412>, 2019年11月28日 参照
18. 鳥取県: 林産物の生産, <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1027087/29rintoukei3-1.pdf>, 2019年12月23日 参照
19. 林野庁: 公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律, 令和元年11月1日, <http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/koukyou/index.html>, 2019年11月28日 参照
20. 林野庁: 平成29年度の公共建築物の木造率について, 平成31年度3月14日, <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/190314.html>, 2019年12月4日 参照
21. 社団法人 日本建築学会,「建築設計資料集成 総合編」, 平成13年6月30日, 丸善株式会社

鳥取県における公立小学校の 用途転換と活用に関する研究

鳥取大学工学部社会システム土木系学科
建築環境工学研究室
大槻圭太郎

目次

- 背景・目的
- 既往研究との位置づけ
- 研究方法
- 調査概要
- まとめ
- 参考文献

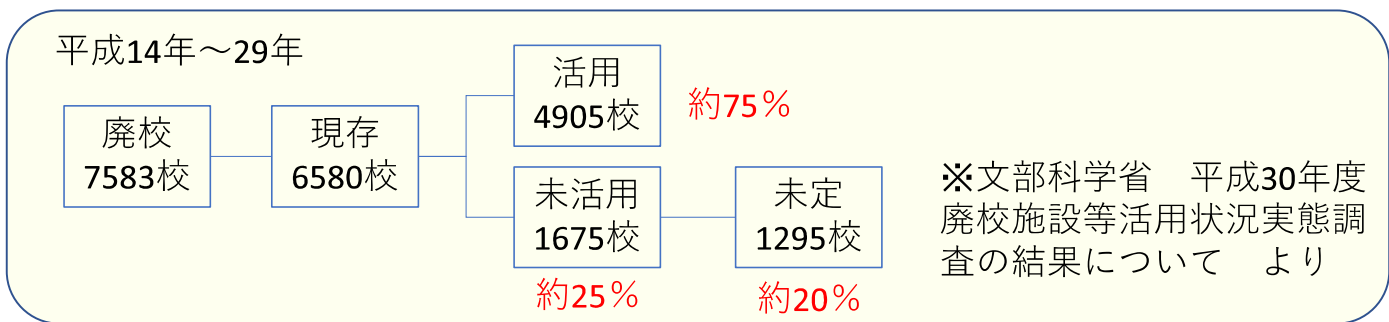
背景・目的

小学校の廃校（年間500校）

- 少子化による児童数の減少
- 市町村合併
- 学校数の減少による財政負担の緩和

廃校によるデメリット

- 廃校維持費
- 治安の悪化（廃校の荒廃、不法投棄）
- 地域の活気の低下

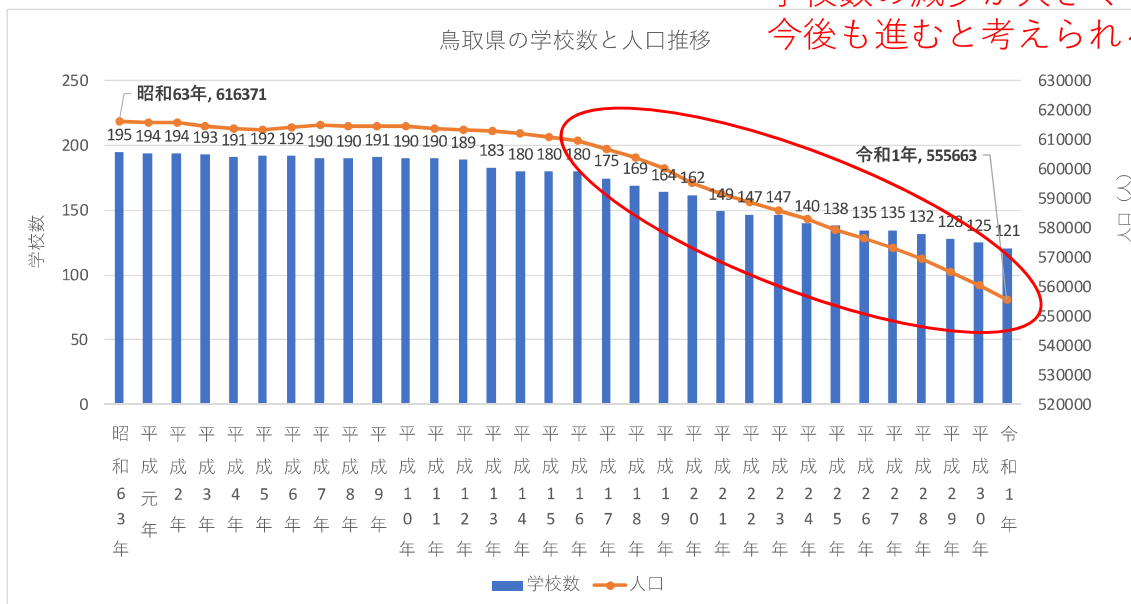


中国地方の小中学校減少（昭和63年～令和1年）

都道府県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
減少数	74	110	95	213	82
減少率 (%)	37.9	35.5	19.7	31.1	21.2

中国地方において、鳥取県は小学校の減少率が最も大きい。

平成16年以降、人口減少に伴い学校数の減少が大きくなった。今後も進むと考えられる。



鳥取県の人口と小学校数の推移

廃校活用にあたって

校舎全ての活用の他、一部活用も多い。

一つの廃校に複数の使用者・団体が存在する場合も多い。



活用内容によって使用しやすい室を選んでいる、とも考えられる。

- ・ 全国で活用未定廃校は20%
- ・ 鳥取県は小学校の減少率が高い。
- ・ 鳥取県は平成16年以降、廃校が目立つ。



目的

鳥取県の公立小学校を対象に、過去約30年間の統廃合の状況及びその廃校の室ごとの活用状況の調査を行う。

鳥取県の小学校廃校活用の現状を把握することを目的とする。

既往研究の位置づけ

〈廃校舎の活用状況〉

細田ら：小学校の統廃合の経緯と共に、校舎の活用実態を明らかにしている。

〈廃校活用による地域への影響〉

本条ら：廃校以前の学校と地域との関係、活用までの経緯、現状から活用と地域との関係性を明らかにしている。

〈廃校活用までのプロセス〉

福嶋ら：廃校活用の事例から、廃校決定から運営に至るまでの活用プロセスの分類、把握している。

〈児童・学校数の推移〉

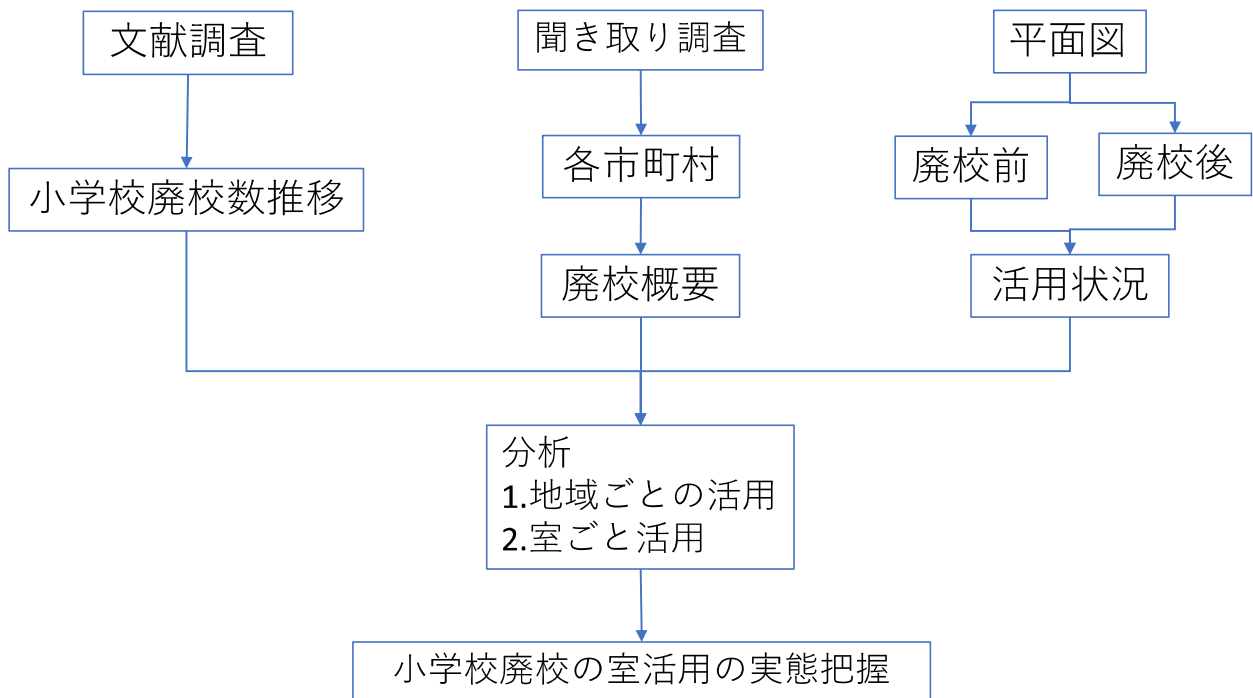
牛島ら：中国地方の各県の児童数と学校数の推移から廃校の時期・地域的特徴を明らかにしている。



廃校の活用状況とその際の課題・問題点が多く研究されている。廃校の室ごとの活用、方法について注目した研究は少なく、その点において他の研究と異なる。

研究方法

調査対象：鳥取県各市町村の昭和63年～平成31年の小学校廃校
 調査時期：令和1年7月～11月



調査概要

調査回収状況

市町村	廃校数		活用			未活用		調査回収
	昭和63年～ 令和1年（平成31年）	学校利用	その他		校舎あり	取り壊し		
			図面あり	図面なし				
鳥取市	16	6	4	2	0	4	○	
米子市	1	0	1	0	0	0	○	
倉吉市	3	—	—	—	—	—	×	
境港市	0	0	0	0	0	0	—	
岩美町	9	—	—	—	—	—	×	
若桜町	4	1	1	1	1	0	○	
智頭町	7	1	2	4	0	0	○	
八頭町	6	1	1	1	3	0	○	
三朝町	8	1	0	0	3	4	○	
北栄町	0	0	0	0	0	0	—	
湯梨浜町	5	1	3	0	0	1	○	
琴浦町	5	—	—	—	—	—	×	
日吉津村	0	0	0	0	0	0	—	
大山町	6	1	4	1	0	0	○	
南部町	1	0	1	0	0	0	○	
伯耆町	5	1	0	3	1	0	○	
日南町	13	1	8	2	0	2	○	
日野町	3	1	2	0	0	0	○	
江府町	8	—	—	—	—	—	×	
合計	75 / 100	15	27	14	8	11	12 / 16	
			41					
割合 (%)	75	20.0	36.0	18.7	10.7	14.7	75.0	
			54.7					
			100	74.7				25.3

1.地域ごとの活用

地域	廃校数	調査回収済	活用				未活用	
			学校	その他			校舎あり	取り壊し
					図面あり	図面なし		
東部	42	33	9	16	8	8	4	4
中部	21	13	2	3	3	0	3	5
西部	37	29	4	22	16	6	1	2

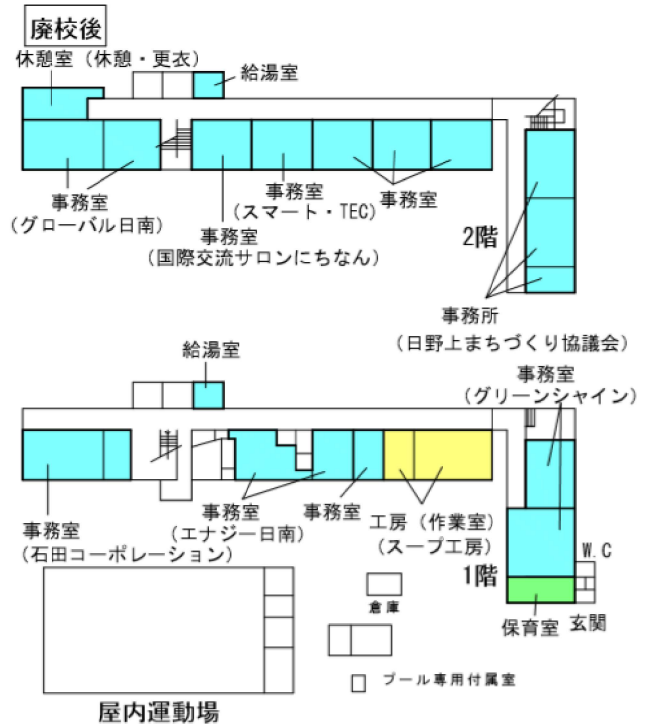
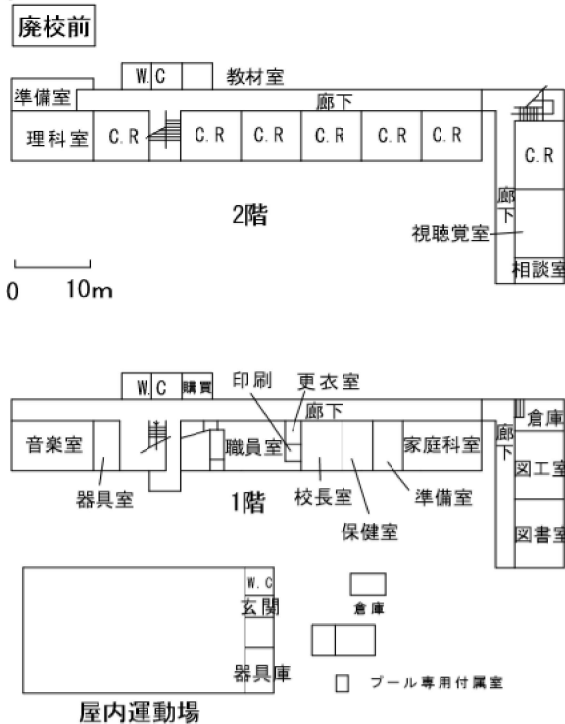
学校利用以外の活用・図面あり
 東部：8校（42校）
 中部：3校（21校）
 西部：16校（37校）

過疎指定地域：17校（71校）
 過疎指定地域外：10校（29校）

地域	廃校数	過疎指定地域	調査回収済	活用				未活用	
				学校	その他			校舎あり	校舎なし
						図面あり	図面なし		
全部過疎指定	岩美町	9	9	-	-	-	-	-	-
	若桜町	4	4	4	1	2	1	1	0
	智頭町	7	7	7	1	6	2	4	0
	大山町	6	6	6	1	5	4	1	0
	日南町	13	13	13	1	10	8	2	0
	日野町	3	3	3	1	2	2	0	0
	三朝町	8	8	8	1	0	0	0	3
	江府町	8	8	-	-	-	-	-	-
一部過疎指定	鳥取市	16	5	5	1	2	0	2	0
	八頭町	6	3	3	0	0	0	0	3
	湯梨浜町	5	0	0	0	0	0	0	0
	伯耆町	5	5	5	1	3	0	3	1
合計	90	71	54	8	30	17	13	8	

業種別

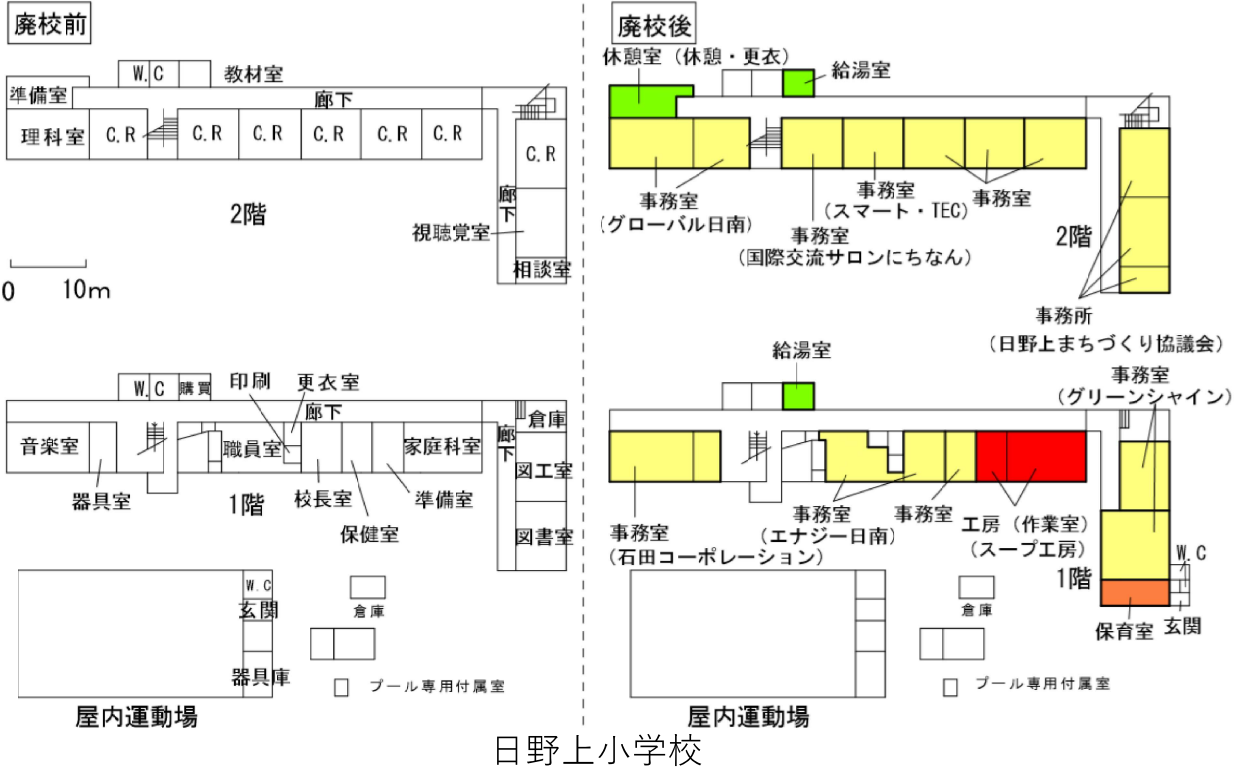
- 社会体育館
- 体験交流施設等
- 社会教育施設・文化施設（公民館、図書館、博物館、劇場など）
- 倉庫
- 福祉施設・医療施設等
- 大学
- 企業等の施設・創業施設（民間企業、NPO法人のオフィス、店舗、自治体など）
- 住宅
- 庁舎等



日野上小学校

実態

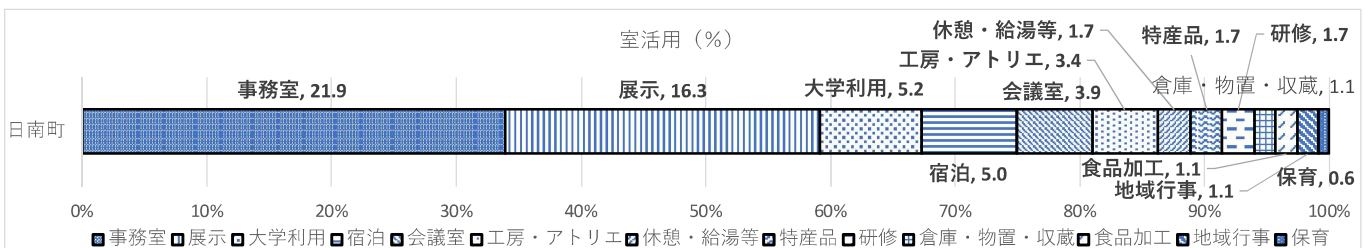
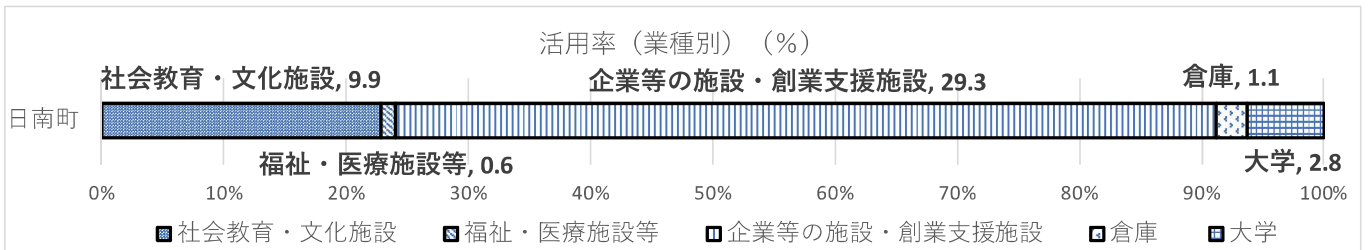
- | | | | | | |
|--------|----------|------|---------|----------|--------------|
| 社会体育館 | 倉庫・物置・收藏 | 飲食店 | 研修 | 放送室（演劇） | 脱衣（更衣） |
| 事務室 | 工房・アトリエ | 売店 | ワークスペース | 土器洗浄室 | 水呑・手洗い・洗面 |
| 会議室 | 地域交流・集会所 | 大学利用 | セミナールーム | 木器保存処理室 | ポンプ |
| 展示 | 休憩・給湯等 | 保育 | 劇場 | 調査研究室 | 前室 |
| 写場 | 宿泊 | 地域行事 | 作業（演劇） | 調理（キッチン） | 多目的 |
| 面談室 | 食品加工 | 体験学習 | 楽屋（演劇） | シャワー・浴室 | ホール・ラウンジ・ロビー |
| 資料・図書館 | 特産品 | | | | |



日南町 （廃校13校、活用10校、図面あり8校）

活用率43.6%

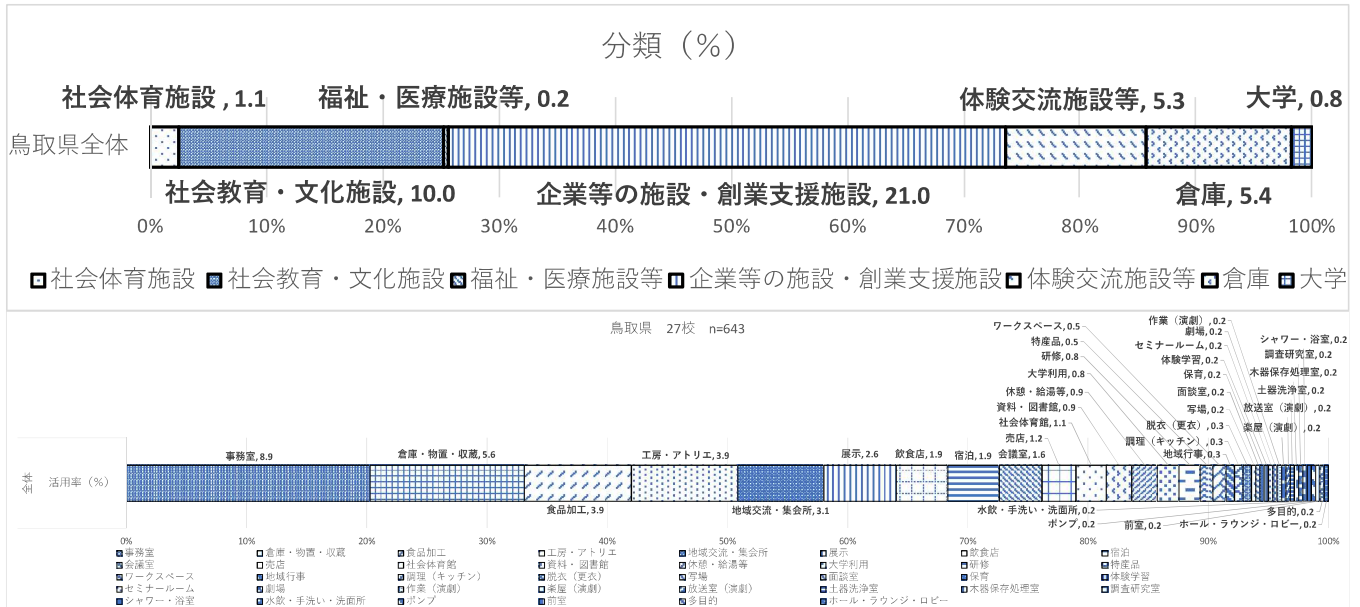
事務室 21.9%
 展示 16.3%
 大学利用 5.2%



鳥取県 (廃校100校、図面あり27校)

活用率43.7%

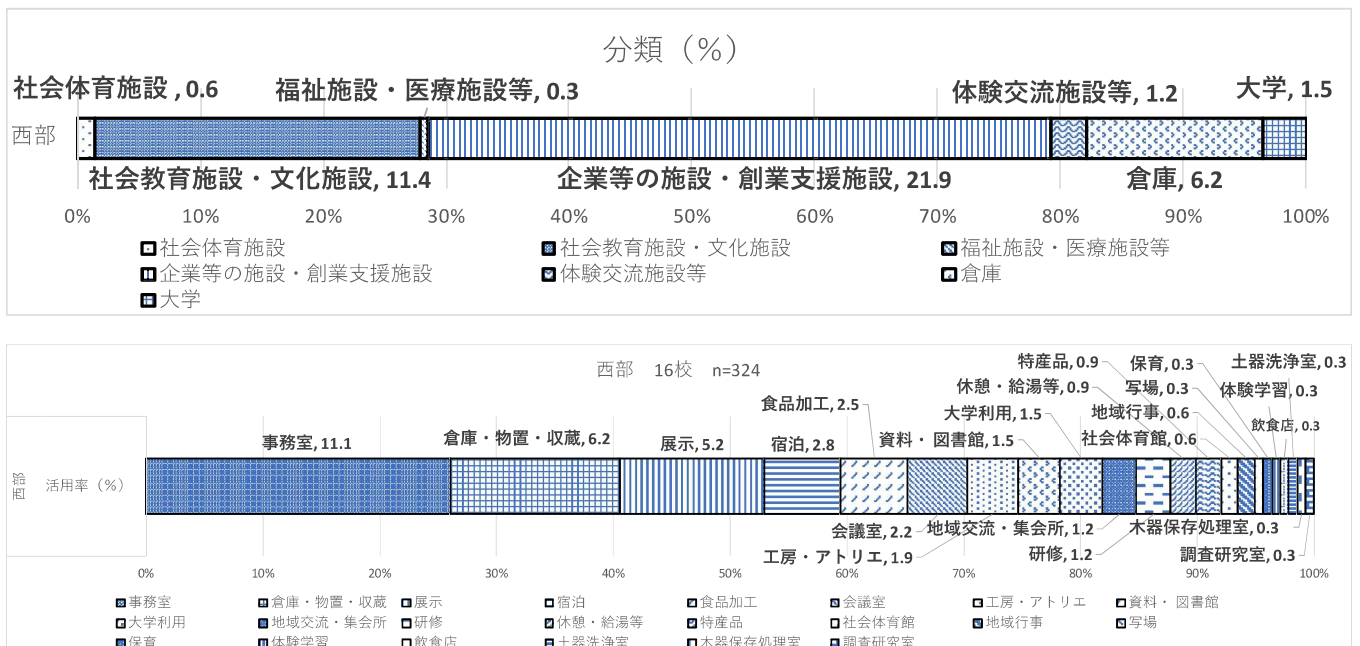
事務室 8.9%
倉庫・物置・収蔵 5.6%
食品加工、工房・アトリエ 3.9%



西部 (廃校37校、図面あり16校)

活用率43.2%

事務室 11.1%
倉庫・物置・収蔵 6.2%
展示 5.2%



鳥取県全体

鳥取県（活用率43.7%）

1.事務室	8.9%
2.倉庫・物置・収蔵	5.6%
3.食品加工、 工房・アトリエ	3.9%

地域ごと

東部（活用率49.8%）

1.事務室	9.1%
2.地域交流・集会所	7.3%
3.倉庫・物置・収蔵、 工房・アトリエ	6.8%

中部（活用率32%）

1.食品加工	16.0%
2.工房・アトリエ	4%
3.飲食店、売店	3%

西部（活用率43.2%）

1.事務室	11.1%
2.倉庫・物置・収蔵	6.2%
3.展示	5.2%

過疎指定地域

過疎（活用率36.3%）

1.事務室	10.9%
2.展示	4.2%
3.宿泊	3.2%

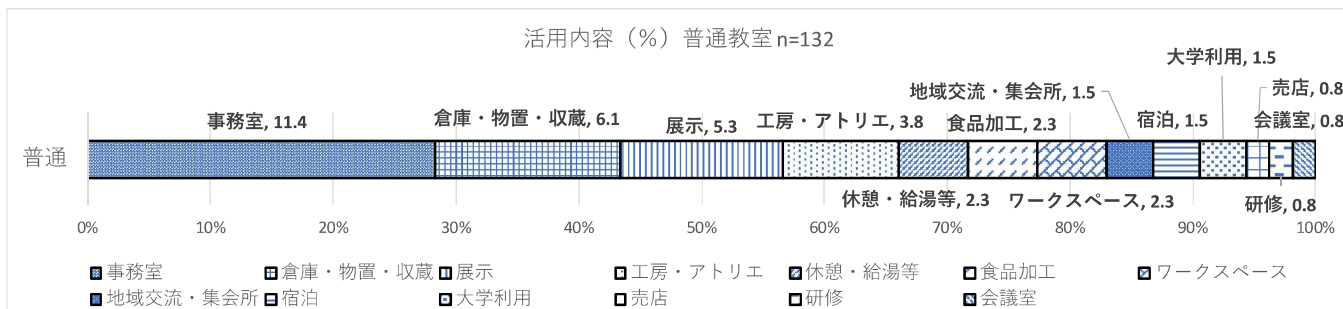
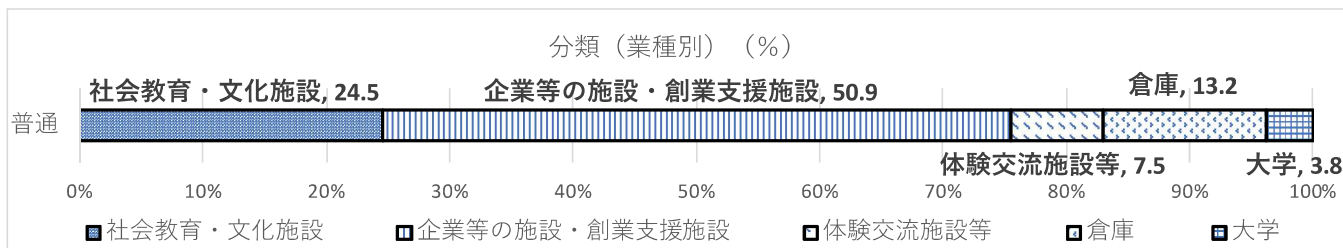
過疎外（活用率54.1%）

1.倉庫・物置・収蔵	10.9%
2.工房・アトリエ、 地域交流・集会所	7.1%
3.事務室	6%

2.室ごとの活用

普通教室 活用率40.2%

事務室	11.4%
倉庫・物置・収蔵	6.1%
展示	5.3%



各室

普通教室 n=132 (活用率40.2%)

- 1.事務室 11.4%
- 2.倉庫・物置・収蔵 6.1%
- 3.展示 5.3%

理科室 n=22 (活用率63.6%)

- 1.工房・アトリエ、食品加工、事務室 13.6%
- 2.倉庫・物置・収蔵 9.1%
- 3.資料・図書館、地域行事、セミナールーム 4.5%

家庭科室 n=22 (活用率50%)

- 1.工房・アトリエ、食品加工 13.6%
- 2.特産品 9.1%
- 3.事務室、資料・図書館、調理 4.5%

音楽室 n=21 (活用率61.9%)

- 1.事務室、会議室、食品加工 13.6%
- 2.展示、工房・アトリエ
倉庫・物置・収蔵、楽屋(演劇) 4.8%

まとめ

1. 地域ごとの活用

- ・鳥取県全体：事務室、倉庫等の活用が最も多い。
- ・東部：事務室、地域交流・集会所、倉庫等、工房・アトリエの活用が多い。
- ・中部：食品加工、工房・アトリエの活用が多い。
- ・西部：事務室、倉庫等、展示の活用が多い。



事務室や倉庫は活用しやすい。

事務室は企業の呼び込みによる雇用創出や地域活性化が期待される。

活用率は鳥取県全体では**50%以下**、地域ごとでは東部>西部>中部となる。

廃校数が多い地域ほど廃校活用に力を入れている、または廃校が多くなったことで廃校活用に関心を持つ人が増えたことが考えられる。

- ・過疎指定地域：事務室の活用が大きい。
全体の活用が過疎指定地域外より少ない。
- ・過疎指定地域外：倉庫等、食品加工、工房・アトリエ、
地域交流・集会所の活用が多い。



過疎地域指定の活用内容としては**事務室が多く、企業等の呼び込みによる雇用創出、地域活性化が期待**される。

2.室ごとの活用

- ・ 普通：事務室や倉庫、展示、工房等の活用が多い。
ある程度の広さがあり、かつ水廻り設備がない場合が多く、単純な用途にて活用しやすいからだと考える。
- ・ 理科室：事務室の他、工房や食品加工等の活用が多い。
水廻りがよく、かつ元々実験、工作等の作業をする室のためだと考える。
- ・ 家庭科室：工房や食品加工の活用が多い。
元々の設備が整っている。
- ・ 音楽室：事務室や会議室の活用が多い。
元々防音性に優れた室である。



元の室ごとに活用内容に特徴があることが把握できた。

今後の方針

活用しやすい内容の把握により、アピールや誘致方法の模索。
調査廃校数を増やすことでの精度の上昇。

参考文献

- ・ 学びの場.com: 「学校統廃合を進める理由」、
https://www.manabinoba.com/edu_watch/10412.html (2019.12.24参照)
- ・ excite.ニュース: 「毎年500校が“廃校”に...意外な再利用法と“4つのメリット”とは?」、
https://www.excite.co.jp/news/article/TokyoFm_6TXyAxVUhE/ (2019.12.24参照)
- ・ 文部科学省: 「～未来につなごう～「みんなの廃校」プロジェクト」、
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm(2019.12.24参照)
- ・ 文部科学省: 「平成30年度廃校施設等活用状況実態調査の結果について」、
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/03/1414296.htm (2019.5.15参照)
- ・ e-Stat 政府統計の総合窓口: 「学校基本調査」、<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528> (2019.12.24参照)
- ・ 細田智久: 「鳥取県西部地区における廃校利用の実態分析」、日本建築学会中国支部研究報告集、第38巻、第525号、pp.597-600、2015.3
- ・ 細田智久: 「山陰地方の小学校廃校舎の現状・活用状況に関する研究 その1」、日本建築学会中国支部研究報告書、第40巻、pp.551-554、2017.3
- ・ 本条礼香、三輪康一、栗山尚子: 「廃校施設の活用と地域との関係性に関する研究-兵庫県の公立学校の事例を通じて-」、日本建築学会近畿支部研究発表会、7048号、pp465-468、2015
- ・ 岡本慧: 「都市部における学校統廃合が地域に及ぼす影響」、日本建築学会学術講演梗概集(九州)、5100号、pp.199-200、2016.8
- ・ 10) 福嶋櫻子、位寄和久、大西康伸: 「市町村合併に伴う廃校施設の利活用プロセスに関する研究-熊本県K市の地域住民主体型の廃校施設を事例として-」、日本建築学会九州支部研究報告、第57号、pp.293-296、2018.3

- 石垣文、平野吉信、長谷川俊也：「市町村合併後の公共施設の再編・整備に関する研究-広島県下の小学校・中学校・図書館・庁舎を対象に-」、日本建築学会中国支部研究報告集、第40巻、2017.3
- 牛島朗、中園檀人、細田智久、豊岡智哉、阿部聖彦：「中国地方における公立小学校の児童・学校数推移の地域特性」、日本建築学会計画系論文集、第84巻、第760号、pp.1371-1381、2019.6
- 上田直弥：「地方都市における公立小学校の統廃合の変遷および廃校舎利活用に関する研究」、鳥取大学工学部修士論文、2018.2
- 公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分手続の概要について、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/yoyuu/03082701.htm（2019.12.24参照）
- 鳥取県ホームページ：「鳥取県のプロフィール」、<https://www.pref.tottori.lg.jp/1412.htm>（2019.12.24参照）
- 鳥取県ホームページ：「県内の市町村」、<https://www.pref.tottori.lg.jp/9577.htm>(2019.12.24参照)
- 鳥取県ホームページ：「地域振興3法の概要」、<https://www.pref.tottori.lg.jp/127569.htm>(2019.12.24参照)
- 鳥取県ホームページ：「鳥取県人口移動調査」、<https://www.pref.tottori.lg.jp/9974.htm>（2019.12.25参照）
- 鳥取県ホームページ：「学校便覧」
<https://www.pref.tottori.lg.jp/toukeisiryou/>（2019.12.26参照）
- 文部科学省：「小学校施設整備指針（平成26年7月）」、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/013/toushin/1350522.htm
(2019.12.24参照)

「学び」のルネサンス

~子どもたちとの交流を通して学生が学んだこと~

鳥取大学地域学部

千賀咲樹・田中悠稀・小林勝年

「地域調査」プロジェクト

地域学部人間形成コース2年次必修,1年間の通年科目,地域と教育:「中山間地域の教育を考える」

①週2コマ 計90時間

②日南小学校サマースクール 18時間

③大山小学校セカンドスクール 35時間

④学級支援^{11/8, 11/29, 12/10, 12/13, 1/17, 2/13, 2/21} 42時間

⑤フィールドワーク 16日間

⑥大学での討論 55時間

サマースクールの概要

- ・日程 前半2019年8月 8日・9日
後半2019年8月27日・28日

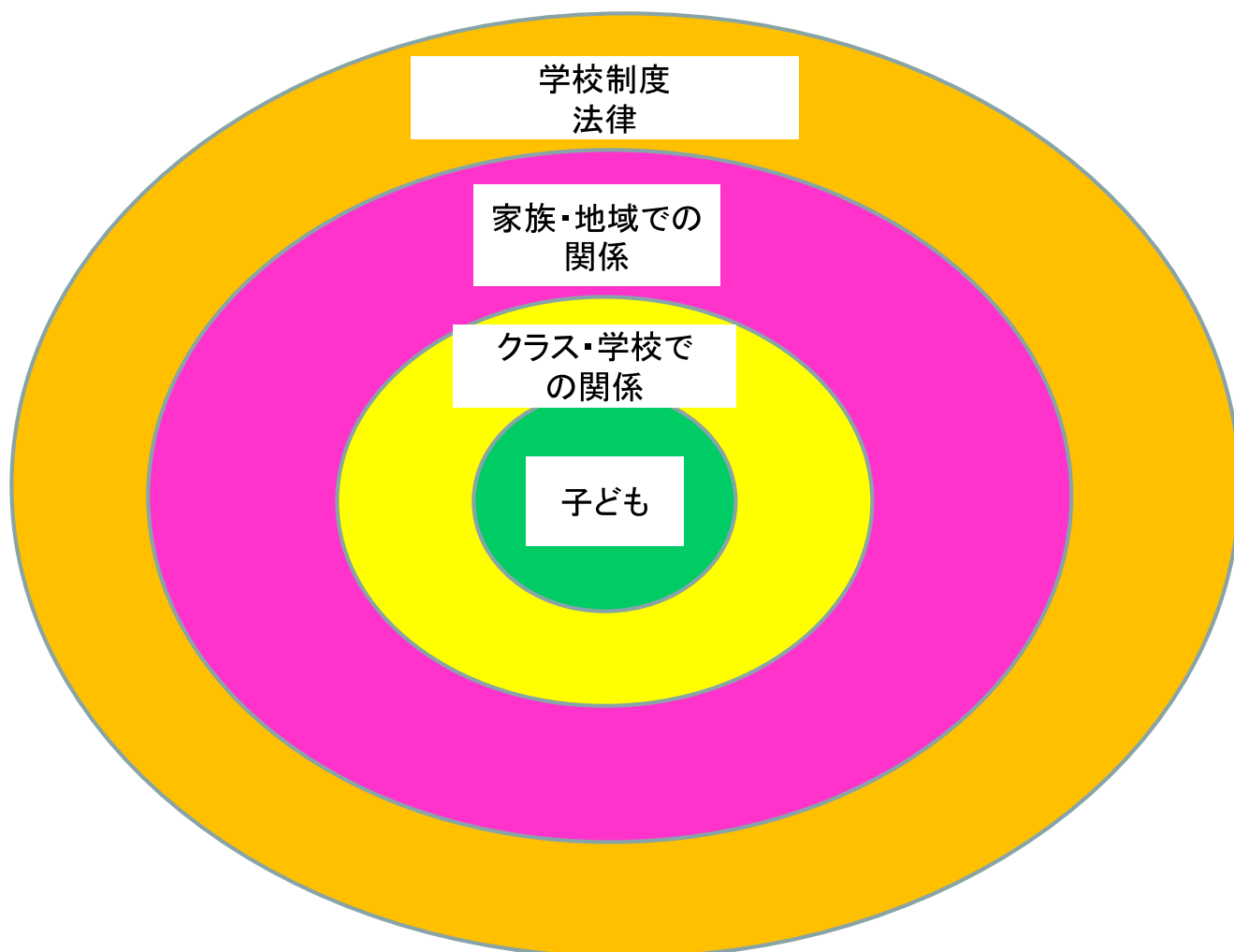
- ・タイムテーブル

- 8:00～ 8:30 朝の会、レクリエーション
- 8:30～11:00 学習(30分ごとに10分間の休憩)
- 11:00～11:10 片づけ、掃除
- 11:10～11:30 帰りの会、レクリエーション

- ・学生たちの役割 学習支援・レクリエーションの企画&運営

- ・課題

- サマー31(国、数、理、社の問題集)
- 漢字ドリル
- 計算ドリル



会話①「おめえ、馬鹿か。馬鹿だからわからんでもいい。」
—「ザビエルって知ってる」—「知らない」—「どうでもいいけど」



会話②「サマースクール嫌」—「どうして」—「だって来たくないもん」—「でも申し込んだんでしょ」—「お母さんが勝手に申し込んだ」

会話③起点という漢字の練習をしていたところ、「『起点』ってどういう意味？」—「わかんない」—「わかんないのに書いてるの」—「うん」—「わかんないで書いてもつまらんですよ。いいかい、起点の反対は何?起きるの反対だから寝るだよ。起きて始まるから終わりだよ。終わる点ということで『終点』だよ」—「そんなこと、どうでもいいし」

会話からの推察と自己洞察

会話④

学生:「なんで答えを写すん?勉強にならんくない?」

A君:「勉強したって意味ないもん。答えを見て終わらせたほうが楽じゃん」

⇒何のために勉強するのか分かっていない?

自分が将来何になりたいのか、将来像が描けていない

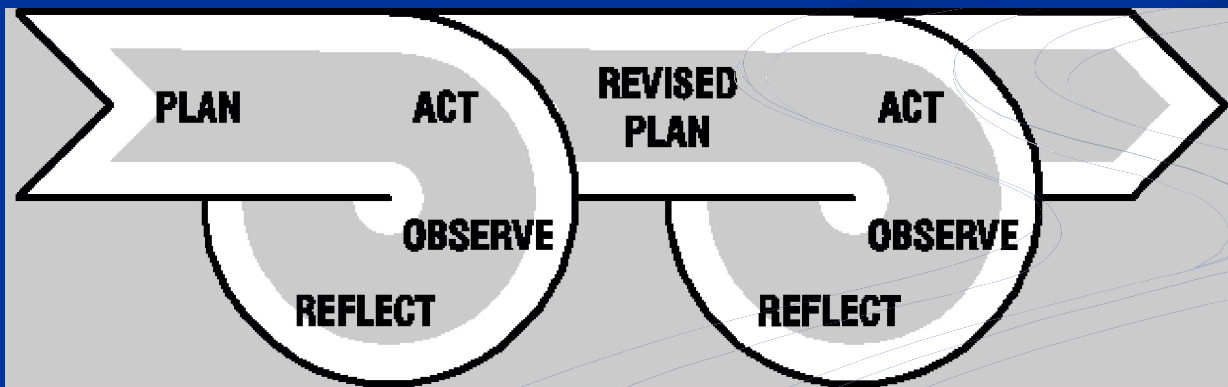
◆自分たちの小学校時代にはなかったのか?

◆果たして確かな将来設計が今の自分にはあるのか?

※「対話」を通してもう一つの自分への問いが始まった

アクションリサーチを軸に

(1) 計画段階 → (2) 実践段階 → (3) 評価段階 → (4) 修正段階 → (5) 適用段階



学校運営目標と実態の検証作業

校訓: 『生き抜く力』～見つめよ自己を 求めよ友を 惜しむな汗を～
児童数: 125名(平成31年4月)

特徴ある取り組み:(本年度の重点目標から)

「ともいき(共に生きる)学習」、「ふるさと学習」の推進

→コミュニケーション・コラボレーション力、

プレゼンテーション力、企画運営力の育成

→ふるさととの文化・歴史・人にふれ、学びの機会を充実

→生活科・総合的な学習の時間の充実

☞シアトルの中学生、モンゴル訪問団や京大留学生との交流、
田植え、稲刈り体験やりんごの収穫などのふるさと学習 etc.



学級支援員として派遣要請をいただきました

役割: 年齢的に子どもたちと近い存在として積極的に関わる (補助スタッフ)
より良い学校作りのために率直な意見が求められた

派遣回数: 7回 (現在)

11/8, 11/29, 12/10, 12/13, 1/17

2/13, 2/21, 3/5, 3/9 (予定)

授業中に感じたこと

- 答えを写す行為、勉強できない子を責め立てる
- 答え合わせの時、赤鉛筆を持っていない→黒鉛筆で丸つけ
- 返ってきたテスト→ぐちゃぐちゃにしたり、剣のように丸める
- 授業についていけない子への支援?

生活の中で感じたこと

・友達関係

→休んでいる子への手紙を書こうとしない
給食の机を運ぶのは人任せ

・掃除

→「誰の教室ですか？」「国の！」
掃除場所に人がいない、先生ばかりが掃除している
雑巾を黒板に投げる

★一人一人は活発で興味のあることに対してやる気はある！
(体育の時間の大縄、読書など)

ゼミで討論されたこと

- ・子どもたちに禁止や制限は伝わりにくい
- ・「デキナイ」ことより「できている」ことから教育は開拓されていくものではないか
- ・子どもには子どもの理屈があるはず
- ・「対話」や「遊び」を通してそれを探っていこう
- ・子どもは毎日学んで成長している
- ・諦めないで粘り強く関係を調整していくことの難しさと大切さ

※「教育実習」を越えた「実習」となった

「勉強」⇒学習⇒学び actuality

「教育の方法」

佐藤学

- よい学校とは
問題のない学校ではない。
- 問題を共有している学校である。

<民主主義社会の形成者>

「学びの心理学」

秋田喜代美

- 教師とは子どもの成長を幸せに感じ
そのことで自らも成長できる専門家のことである。

<子どもの発達≡育み>

鳥大生による 日南町の事業レビュー ～地方創生政策体験学習の取り組み～

鳥取大学工学部 助教 長曾我部まどか

2020年2月29日

令和元年度鳥取大学・日南町連携事業報告会



本日の内容

1. 地方創生政策体験学習について
2. 2018年の事業について
3. 2019年の事業について



地方創生政策体験学習とは

- 夏休みの集中講義
 - a. 事前学習 2コマ
 - b. 体験学習 8月・9月のうち5日間
 - c. 事後学習 5コマ
- 実際に自治体に行って、地方創生に関する事業を学ぶ
- その後、模擬事業仕分けと発表会を行う



事前学習（小野教授）

- まず「地方創生」や「政策評価」について学ぶ



体験学習

- 事業関係者へヒアリングを行う。



模擬事業仕分け



最終発表会



参加者と議論



2018年 旧木下家の活用事業

工学部生3名



事業の概要

- 事業名 旧木下家の活用事業
- 開始年度 2017年9月
- 総合戦略における位置づけ: **観光の産業化**
- 事業の目的 イベントなどで旧木下家を活用しながら維持管理費を得る。
- 目指す成果 日南町の交流人口を増やす。



模擬授業仕分けでの指摘・意見

事業そのものについて

- 保存は必要だが、十分に活用できていない
- **継続的に行える案**に変えるべきでは？

事業の改善について

- 町内の他の観光地と連携する
- 回遊率を高める工夫が必要



事業の課題

- 木下家のイベントのみでは
 - 地域に対する波及効果が望めない
 - 維持管理費を賄えない
- 参加者の人数が減少傾向にある



改善案

今後も事業を続ける場合

- 日南町の観光案内所を設置する
- オークションの開催頻度を減らし一回のオークションで質のいい品物を出す
- 木下家の説明が書かれたものを掲示する

事業をやめる場合

- 短期間のテナントを募集する
- アーティストやクリエイターを対象として、数日から1週間の短期間の貸し出しを行う。

アーティスト・イン・レジデンス



学生の感想2018

- 日南町には**すばらしい観光地がたくさんある**ので、宣伝や他の観光地と連携することが、事業成功の鍵ではないかと感じた。
- 今後どういう風に活用していくかなど、先のことを見据えて事業を行わなければならないと感じた。
- イベントの成功だけでなく、波及効果のことも考えないといけないので難しかった。



2019年 多里地域のまちづくり

工学部生2名，地域学部生1名



事業の概要

- 事業名 住民参画まちづくり事業
- 開始年度 2006年4月～現在
- 総合戦略における位置づけ: **安心して暮らし続けられるまちづくり**
- 事業の目的 各地域における自治能力の存続
- 目指す成果
 - ① まちづくりの推進
 - ② 地域活性化の推進
 - ③ 施設・資源の維持管理



模擬授業仕分けでの指摘・意見

肯定的な意見

- 住民主体でまちづくりや住民サービスを行っている点は良い
- 需要がかなりあり、有益である
- 事業の効果が住民全体に行き渡っていることが強み

否定的な意見

- ボランティアで労力を賄うには限界があるのではないか
- 負担が一部に集中しており公平性にかける
- 人件費を要さないことが後継者や担い手不足の原因になっている



担い手について(ボランティア・後継者)

- NPOなどの事業は会社化が難しく、心付け程度の報酬がやっとなのが現状である。
- 利益に関しては、事業者との調整を要する
- 担い手・後継者については、多里まち協に若者で構成する部があり、後継者育成の足掛かりになるのでは。



その他の活動

クロム鉱山での環境美化活動

1. 鉱山の閉山以来放置されてきた当時の貴重な資料を整理
2. 鉱山に生い茂った木や草の伐採



学生の感想2019

- 地域資源を活用する難しさを感じた。地方では「観光資源化」が促されているが、金銭的・人的資源が不足していると思う。
- 地域活動が盛んなことに驚いた。これが日本の将来だといい。
- 「地域づくりには正解も不正解もない」という言葉が印象に残っている。

令和元年度鳥取大学・日南町連携事業実績報告

鳥取大学－日南町連携事業ワーキンググループ会議・連携事業報告会

第1回 令和元年 7月16日（鳥取大学鳥取キャンパス）

第2回 令和元年11月14日（鳥取大学米子キャンパス、鳥取大学鳥取キャンパス）

【教育・文化】

1. にちなんふる里まつりに連携する出前科学実験教室の開催（継続）：

地域実践教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）

（技術部化学バイオ・生命部門技術長 八島正司／教育委員会との連携）

【実績報告】

毎年10月に開催される「にちなんふる里まつり」において、鳥取大学医学部及び研究推進機構研究基盤センター、農学部（学生含む）、技術部の教職員がこれと連携して科学実験教室を開催している。日南町の多くの子供達が科学実験やものづくりを楽しむ中で、科学への興味関心を引き起こす機会になることを目指している。

本年も10月26日、27日に開催した「にちなんふる里まつり」にて、27日に去年の日南町総合文化センターから以前から行われていた日南町役場庁舎に会場を変更して、鳥取大学教職員および日南町職員の協力を得て、去年より1つ少ない8ブースの開設であったが、受付来場者数は例年並みの75名の参加があった。場所の変更により前日から準備を行わなくて良くなりスムーズに開催することが出来た。1つのブースに集中しすぎたことが問題点ではあるが、子供だけでなく、親子・家族での参加、大人の参加もあり、身近な物を通して科学への興味・関心を持ってもらう一助となるための更なる発展を期待している。



2. 国際理解講座「外国の文化に触れよう」(継続) :

地域実践教育活動(エクステンション&アウトリーチ事業)

(国際交流センター准教授 御館久里恵/日南町図書館 浅野主任司書)

【実績報告】

令和元年8月7日、今年度はインドネシアからの留学生二人を招いて国際理解講座を開催し、小学生中心に14名の参加があった。今回も、両国で出版された絵本の翻訳本は少なく、残念ながら絵本を通しての国際理解はできなかった。その代わりに、時間内にインドネシアの言葉でなるべくたくさんの人と自己紹介をするゲーム、国に関するクイズや留学生に現地の遊びを教えてもらうなど体験的プログラムを多く取り入れた。普段は他国の人と関わる機会が少ない日南町の子どもたちと留学生の交流を深めることができた。



3. とっとり暮らし早期体験学習(継続) : 地域実践型教育活動(地域連携授業)

(地域価値創造研究教育機構教授 清水克彦/企画課 牧主事)

【実績報告】

鳥取大学と連携協定を締結している日南町、大山町、琴浦町、南部町、智頭町、八頭町の6町をフィールドとして、実際に現地に赴き視察を実施し、大学入学後早い時期に地域の実情に接することにより、各町の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、地域を学ぶ動機付けを行うことを目標とした講義である。

日南町ではR元年5月9日(木)に牧主事に町の概要について大学で講義いただき、R元年5月19日(日)には、実際に学生が町を訪れ、にちなん中国山地林業アカデミーにおいて、林業の現状やアカデミーの取り組みを学ぶとともに、ヒノキ林に入り実際に間伐を行い、林業の面白さや難しさの一端を体験させていただいた。学生の感想文をまとめ、牧主事に提出し、関係者の皆様に配布を依頼した。また、内容や学生の感想をCOC推進室HPで紹介する予定である。

R元年7月18日(木)の最終講義では学生が得た気づきなどについての報告会を鳥取大学にて実施した。

4. 「町制 60 周年記念イベント」において鳥取大学ジャズ&フュージョン研究会が演奏：その他事業 (地域価値創造研究教育機構 清水克彦／総務課との連携)

【実績報告】

10月6日に開催された「町制 60 周年記念イベント」において、鳥取大学ジャズ&フュージョン研究会のメンバー7名が演奏を行った。その後演奏を行った北村英治とアロージャズオーケストラのメンバーとも共演し、会場は大いに盛り上がりを見せた。町制 60 周年をお祝いするのにふさわしい賑やかなステージとなった。



5. まちおこしイベント「にちなん日和 2019」において

鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルが演奏：
地域実践型教育活動（エクステンション&アウトリーチ事業）
(地域価値創造研究教育機構 清水克彦／農林課（にちなん日和実行委員会）との連携)

【実績報告】

10月20日に開催されたまちおこしイベント「にちなん日和 2019」において、鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルのメンバー12名が開会のファンファーレを演奏し、その後数回ステージ演奏を行った。会場は大いに盛り上がりを見せた。イベントの雰囲気は大いに盛り上げる賑やかなステージとなった。



6. 地方創生政策体験学習（継続）：地域実践型教育活動（地域連携授業）

（工学部助教 長曾我部まどか／企画課牧主事）

【実績報告】

9月3日（火）～9月6日（金）の4日間、日南町地内で体験学習を行った。今年度は多里地域のまちづくり事業を対象とし、地域防災や自家用有償旅客運送といった多里地域の取り組みについて、まちづくり協議会の方や住民の方へヒヤリングを行い、多里地域の特徴やまちづくり事業の成果について整理した。体験学習の最終日にはヒヤリングを行った地域の方や役場職員に対し学習した内容を発表した。また9月27日（金）に最終発表を行い、日南町への観光に対する提案も行った。この講義の受講生は公務員志望者が多く、体験学習は公務員の現場を体験したり、住民と交流したりする良い機会になっているため、来年度も継続して実施したいと考えている。

7. 鳥取大学・日南町連携講座として「にちなん町民大学」を開催（継続）：その他連携事業

（鳥取大学教員／教育委員会）

【中間報告】

日南町生涯学習講座としてさまざまな分野の講師を招き、毎月1回「にちなん町民大学」を開催している。日南町に関するさまざまな調査・研究をされている鳥取大学より講師を招き、講演していただくことにより、町民が日南町の魅力や特徴・特性を知る機会としたい。

令和2年2月2日の鳥取県文化財保護審議会において、「日南町神戸集落のサクラソウ群落」を鳥取県文化財に指定するよう鳥取県知事へ答申がなされました。

そこで今年度は、樹木や草本の個体群生態を中心に調査・研究をされている鳥取大学農学部生命環境農学科の永松大教授の講師依頼をしている。福栄地域に自生する希少な植物である「サクラソウ」の生態のほか、日南町内の天然記念物が持つ意味等についても講演いただき、文化財に対する町民の興味関心を高め、文化財保護意識の向上を目指す。

令和2年3月24日（火）午後6時より日南町総合文化センター多目的ホールにて開催予定である。

8. 日南小学校「サマースクール」（継続）：その他連携事業

（鳥取大学地域学部小林教授、武田准教授／教育委員会）

【実績報告】

今年度のサマースクールは、小学生（1～6年生）を対象に4日間実施し、延べ152名の児童が参加した。小林教授のゼミの学生をはじめとする10名の鳥取大学学生ボランティア、地域ボランティアにご協力いただき、子どもたちの学習を支援していただいた。子どもたちに寄り添いながら、わからない問題を教えていただいたり、励ましていただいたりしたことで、子どもたちは学習にしっかりと取り組むことができた。また、活動の中にソーシャルスキルの育成を意図したレクリエーションを取り入れ、学生にも担当していただいた。

学生にとっては、直接子どもたちと関わることや大学等で学んだことを生かして指導にあたること、自らの課題意識にもつながっていた。また、子どもたちとの関わりが、日南町や子どもたちへの愛着につながっていた。



9. 日南小学校「児童の内面と学級風土の分析」(新規)：その他連携事業

(鳥取大学地域学部小林教授／教育委員会)

【実績報告】

日南小学校の全児童を対象にアンケート調査を実施し、一人一人の内面、また学級全体の傾向を分析することにより、学習や学校生活における児童の実態を把握し、改善につなげる取り組みである。アンケート調査は、鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センターが作成した「学校でのくらしアンケート」を利用し、各学期1回(年3回)の調査を実施している(3学期は3月予定)。アンケート調査の結果は、鳥取大学地域学部小林教授に分析・報告していただいた。11月8日から3月9日まで9回にわたり、小林教授のゼミの学生が交代で1～2名ずつ日南小学校を訪問し、主に4年生のクラスで子どもたちの活動の支援等に取り組んでいる。参加した学生からは、子どもたちの姿や学校の指導等に関する気づきが丁寧にフィードバックされ、教職員にとっても指導のヒントになっている。また、教職を志す学生にとっては、大学での学びを深めたり、生かしたりする場としても意義あるものになっている。



【産 業・環 境】

1 0. 林野庁新規モデル事業への協力：その他連携事業

1. 各事業と構成員

【今年度計画】

1. 不在村地主等山林集約化事業

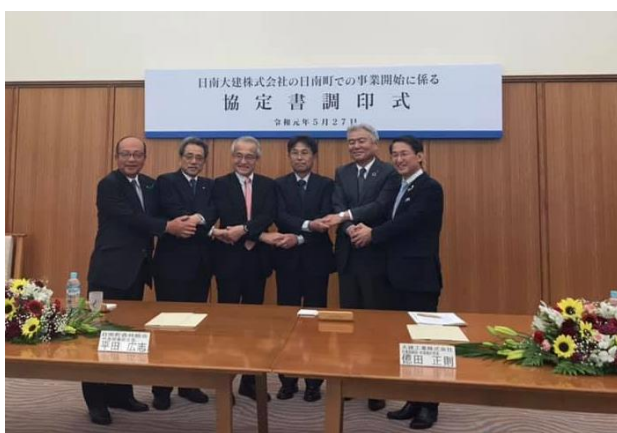
- (1)引き続き寄附採納を進め、共有名義の土地及び相続未登記の土地について対応方法を検討し、山林採納に係る一連の流れ（現地調査、登記状況の確認、所有者とのやり取りなど）をマニュアル化するための調査を実施した。
- (2)日南町、片野准教授、司法書士、日南町森林組合が連携して寄附採納事務を進めた。
寄附採納面積（予定）：3,394m² その他5名の土地を審査予定
- (3)共有名義の土地問題への対策として、私人間の持ち分寄附の検討を進めた。モデルとして1名抽出して試験的に実施中。

2. ICT技術を活用した中央中国山地地域モデル循環型林業の確立事業

日南町森林組合がICT技術を応用したコンテナ苗木生産事業化調査を実施した。

3. FSC材・FSC製品流通拡大事業

- (1)日南大建(株)（大建工業(株)、日南町森林組合、(株)オロチ、越井木材工業(株)が出資）のLVL高付加価値化（防腐化・防蟻化）工場の建設着手
- (2)大建工業(株)によるLVL高付加価値化（不燃化）技術の実証実験



協定調印式(2019.5.27)

4. 林業アカデミー整備事業

(1)学校概要

- ・種 類：各種学校
- ・施 設：校舎、演習林事務所、倉庫、実習棟（令和2年度で建設予定）
- ・演 習 林：668ha（日本最大）、FSC認証林、校舎から車で5分
- ・在籍者数：7名（来年度予定入学者数7名）

(2)今後の課題

- ・1年間の結果を受けたカリキュラムの改良

・生徒の住宅確保

5. 200年の森等木育整備事業

日本一濃密な森林教育を実施するために、体系的な森林教育プログラムを策定する。

- (1) 日南小学校と連携して森林教育を実施（総合的な学習の時間を森林教育を軸にして拡充させる）
- (2) 中学校での森林教育の実施に向けた協議を予定している。
- (3) 学校教育から離れた場所で子供たちが木に触れることができる遊び場の設置の検討
- (4) 新生児に木製玩具のプレゼント



小学4年生森林学習(2019.7.18)



小学5年生森林学習(2019.9.12)



森林教育に係る講演会(2020.2.15)



小学5年生森林学習(2019.9.13)



木質遊び場(仮設)の設置(2019.4.24)

参考

1. 中国山地森林未来創造協議会の構成

プロジェクト名	構 成 員
①不在村地主等山林集約化事業に関する事	日南町、日南町森林組合、国立大学法人鳥取大学
②ICT技術を活用した中央中国山地地域モデル循環型林業確立事業に関する事	日南町、日南町森林組合、日南町木材事業協同組合 【オブザーバー】 鳥取県
③FSC材・FSC製品流通拡大事業に関する事	日南町、(株)オロチ、(株)大建工業、(株)物林、日南町森林組合、鳥取日野森林組合、一般財団法人広島県森林整備・農業振興財団 【オブザーバー】 アサヒの森環境保全事務所
④森林カスケード新マテリアル開発事業に関する事	日南町、(株)オロチ、大建工業(株)、日南町森林組合、国土防災技術(株)、 【オブザーバー】 鳥取県
⑤木造公共施設等整備事業に関する事	日南町、(株)オロチ、日南町森林組合、日南町木材事業協同組合
⑥林業アカデミー整備事業に関する事	日南町、国立大学法人鳥取大学、持続可能な地域社会総合研究所、大建工業(株)、(株)レンタルのニッケン、日南町森林組合、日南町木材事業協同組合 【オブザーバー】 鳥取県、鳥取森林管理署、森林技術・支援センター、国立大学法人鳥根大学
⑦200年の森等木育整備事業に関する事	日南町、国立大学法人鳥取大学、(株)オロチ、日南町森林組合

2. 林業アカデミーサポートチーム

日南町森林組合（代表）

林野庁近畿中国森林管理局鳥取森林管理署

林野庁近畿中国森林管理局森林整備部森林技術・支援センター

鳥取県、公益財団法人鳥取県林業担い手育成財団

国立大学法人鳥取大学農学部フィールドサイエンスセンター、国立大学法人鳥根大学

株式会社レンタルのニッケン、大建工業株式会社、国土防災技術株式会社

株式会社オロチ、日南町木材生産事業協同組合、株式会社グリーンシャイン

岡山県施業研究会

岡山県（令和2年1月28日参画）

11. 日通共生の森10周年記念事業（新規）：その他連携事業

（農学部／農林課・企画課）

【中間報告】

1. 主な動き

日にち	農学部人数	活動内容
7月1日	1	活動前作業内容打合せ
7月8日	3	活動前事前調査
7月13日	3	2019 日通共生の森夏活動（調査）
8月22日	6	図鑑作成：松ヶ峠フロラ、UAV
9月17日	4	図鑑作成：松ヶ峠フロラ、ファウナ調査
10月25日	3	図鑑作成：松ヶ峠フロラ、鳥類調査
11月9日	2	2019 日通共生の森秋活動（調査）、調査中間報告
合計	22	

平成21年度より日本通運(株)が日南町で実施している共生の森活動が令和元年度で10周年を迎えた。それに伴い、この10年間の成果を受けて、活動地内の生態系を調査することによりどのような生態系が守られているかを、広く周知するため「日通共生の森WEB生態系図鑑」を作製する。調査活動は日南町、鳥取大学が担当し、結果をもとに日本通運が自社のHPにWEB図鑑を作製する。鳥取大学共同研究契約を締結し事業実施。令和2年12月31日事業終了予定。

今年度は7月から現地の植生、生態系調査を独自に実施。(1.参照)7月13日、11月9日には日本通運(株)の社員、家族と一緒に活動地で生態系調査を行った。また、11月9日の活動開会式の中で調査の中間報告及び完成イメージについて日本通運(株)、日南町にむけ日置教授、高木院生から説明をおこなった。

今後は春の植生、生態系を調査し、令和2年中に各種データを完成させ、日本通運へ引き渡しを行う。



1 2. 日南町福万来におけるゲンジボタル生息水域の評価（新規）：その他連携事業

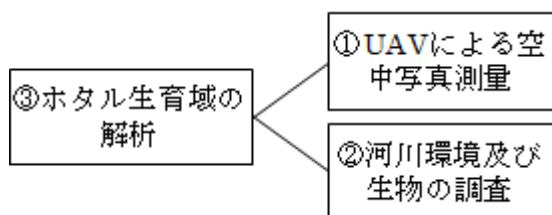
（鳥取大学（日置研究室）とにちなんエコツーリズム推進協議会との共同研究）

本町の希少生物の保護と観光利用の指針となるエコツーリズム全体構想の作成・認定に向け、昨年度末、にちなんエコツーリズム推進協議会の立ち上げた。

本事業は、その重要拠点である福万来のホタル生息域において、ゲンジボタルの生息水域を調査し、その生息域の保全・管理計画を作成し、適切なエコツーリズムの運営に寄与することを目的とする。

事業全体は下図①～③からなり、今年度は日置研究室との共同研究として、UAV による空中写真の撮影、画像解析ソフトにより 3D モデルを作成し、河川内の微地形図を作成した。

今後は、作成した地形図を基にゲンジボタルの調査計画を作成し、下図②及び③の調査を行っていく予定である。



【医療・福祉】

1 3. ハッソーケアの有用性について（新規）：その他事業

（医学部教授 山本美輪、教授 中條雅美／日南町地域包括支援センター、企画課）

今年度、高齢者の生きがい、健康寿命の延伸に資する取り組み、高齢化社会を見据えた災害備蓄としての紙おむつの備蓄品として、東京都の衛生・繊維メーカーのハッソー株式会社と『「高齢者の生きがい、健康寿命延伸のための取り組み」等に関する覚書』を締結し、同社の商品である「ハッソーケア（紙おむつに見えない紙おむつ）」を500セット無償提供いただいた。同製品が「紙おむつを履くことの抵抗感」の軽減につながるのか山本教授の協力のもと、日南町内で実施している百歳体操においてストレスチェックとアンケート調査と分析を行い、高齢化の進む日南町の健康寿命延伸の取り組みの進展を目指す。今年度は、アンケートの作成を行い、令和2年度から調査と分析を行う。

【令和元年度までの主な経緯】

【平成16年度】

- (1) H17. 2. 8 矢田日南町長、内田課長 鳥大訪問
- (2) 3. 23-24 岩崎理事外日南町訪問（情報交換会、にちなん環境林視察）

【平成17年度】

- (3) H17. 4. 21 本名農学部長、日置教授外日南町訪問、視察（県庁林政課同行）
- (4) H18. 2. 21 矢田日南町長、内田課長来学 学長、岩崎理事、林監事外訪問
- (5) 2. 28-3. 1 岩崎理事、林監事外 日南町訪問（意見交換会、町内小学校等視察、協定の調印式）

【平成18年度】

- (6) H18. 4. 20 第1回ワーキンググループ会議 ～H19. 3. 24 第4回WG会議
- (7) 7. 7 地域活性化教育研究センター開所式及び記念講演会（能勢学長講演）
- (8) H19. 3. 25 鳥取大学・日南町連携事業成果報告会（日南町役場交流ホールにて）

【平成19年度】

- (9) H19. 4. 1 鳥取大学社会貢献推進課における日南町職員の派遣研修（手嶋主事）
- (10) 4. 16 30年後プロジェクト有識者会議
- (11) 4. 20 第1回WG会議 ～H20. 3. 2 第3回WG会議
- (12) H20. 3. 2 連携事業成果報告会（日南町生涯学習まちづくりフォーラム共催）

【平成20年度】

- (13) H20. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（高橋主任）
- (14) 4. 19 30年後プロジェクト有識者会議
- (15) 5. 8 第1回WG会議 ～H21. 2. 15 第3回WG会議
- (16) H21. 2. 15 連携事業成果報告会（日南町生涯学習まちづくりフォーラム共催）

【平成21年度】

- (17) H21. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（荒金主事）
- (18) 6. 9 第1回WG会議 ～H22. 3. 12 第3回WG会議
- (19) 9. 9-11 明治大学「M-Navi プログラム」による日南町訪問
- (20) 9. 16 「日野郡フィールド実践による地域づくりセミナー」過疎プロジェクト報告会開催
- (21) H22. 1. 22 「大学連携によるまちづくり」能勢学長講演会／連携事業報告会
- (22) 2. 18-19 明治大学菊地ゼミによる日南町訪問・意見交換

【平成22年度】

- (23) H22. 4. 1 鳥取大学社会貢献室における日南町職員の派遣研修（荒金主事（2年目））
- (24) 4. 19 第1回WG会議 ～H23. 3. 12 第3回WG会議
- (25) 9. 9 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (26) 11. 24 日南町議会・教育委員会合同研修会
- (27) H23. 2. 1 明大・鳥大合同セミナー「日南町地域活性化への提言」
- (28) 3. 12 「地球温暖化と日南町の挑戦」中村名誉教授講演、連携事業報告会

【平成23年度】

- (29) H23. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（石倉主事）
- (30) 5. 6 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～12. 2 計10回開催
- (31) 6. 15 第1回WG会議 ～H24. 3. 3 第3回WG会議
- (32) 10. 24 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (33) 11. 20-22 明治大学菊地准教授ゼミ生による日南町訪問・意見交換
- (34) H24. 3. 3 連携事業成果報告会（同日、日南町環境フォーラム開催）

【平成24年度】

- (35) H24. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（石倉主事（2年目））
- (36) 4. 28 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～12. 8 計10回開催
- (37) 6. 8 第1回WG会議 ～H25. 3. 2 第3回WG会議
- (38) 8. 20 インターンシップ受入（～8. 31のうち10日間）
- (39) 10. 24 日南町議会による鳥大視察、研修会
- (40) 11. 16 にちなん「農家楽」セミナー開催
- (41) H25. 1. 25 日南町自治協議会・自治会長会合同研修（乾燥地研究センター見学）
- (42) 3. 2 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 25 年度】

- (43) H25. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（川上主事）
 (44) 5. 17 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～翌 26. 3 計 11 回開催
 (45) 6. 11 第 1 回WG会議 ～H26. 3. 9 第 3 回WG会議
 (46) 9. 9 インターンシップ受入（～9. 13 工学研究科 学院生 3 名）
 ～H25. 11. 11 報告会を開催（日南町役場にて）
 (47) 10. 2 日南町森林活用プロジェクト会議の立ち上げ
 第 1 回日南町森林活用プロジェクト会議 ～H25. 12. 5 第 2 回会議
 (48) 11. 12 四町連携（日南、南部、大山、琴浦）合同企画
 鳥取大学連携シンポジウムを開催（琴浦町にて）
 (49) 3. 9 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 26 年度】

- (50) H26. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（川上主事（2 年目））
 (51) 5. 16 鳥取大学連携講座「にちなん町民大学」～翌 27. 3 計 12 回開催
 (52) 6. 1 鳥取大学知（地）の拠点整備事業シンポジウムを開催（増原町長出席）
 (53) 6. 10 第 1 回WG会議 ～H27. 2. 28 第 3 回WG会議
 (54) 7. 31 第 1 回日南町森林活用プロジェクト会議 ～H26. 11. 5 第 2 回会議
 (55) 9. 9 ハーブの利用に関する研究会が解散
 (56) 9. 29 オーダーメイド型インターンシップ開催（～10. 3 工学研究科 6 名）
 ～H26. 12. 1 報告会を開催（日南町役場にて）
 (57) 10. 12 鳥取大学風紋祭に炊き込みご飯を出展（四町連携事業）
 (58) 2. 9 4 タウンストーリーズ（地域の課題解決に取り組んだ学生たち）
 研究展示会を開催（～2. 26 鳥取大学広報センター）
 (59) 2. 24 日南小学校にて高齢者疑似体験学習を開催（医学部山本教授）
 (60) 2. 28 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 27 年度】

- (61) H27. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（古川主事）
 (62) 4. 17 鳥取大学連携講座 平成 27 年度「にちなん町民大学」開校～翌 28. 3 計 13 回開催
 (63) 5. 9 「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
 (64) 6. 2 第 1 回WG会議 ～H28. 2. 28 第 3 回WG会議
 (65) 7. 1 地域学部「地域学入門」にて、古川派遣職員が鳥大と日南町の連携について説明
 (66) 7. 15 とりりん・オッサンショウオ木製パネルの鳥大への贈呈式（鳥取大学広報センター）
 (67) 7. 15 「公共政策論 I」にて、増原町長が『「創造的過疎」のまちづくり』と題して講演
 (68) 7. 30 放置財研究会が発足
 (69) 8. 20 子ども支援連絡会議を開催（計 3 回開催）
 (70) 9. 5 日南町まちづくり大会～まち（むら）づくり協議会 10 周年&鳥取大学×日南町連携協定 10 周年記念事業
 ～（日南町総合文化センターさつきホールにて）
 (71) 10. 10 鳥取大学風紋祭に炊き込みご飯を出展（5 町連携事業）
 (72) 10. 25 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室 2015（9 年目）
 (73) 12. 11 大宮で現地報告会を開催
 （地域貢献支援事業「コミュニティ力向上に向けたワークショップスキームの開発」）
 (74) 2. 27 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）
 (75) 2. 29 WG 会議が平成 27 年度鳥取大学長表彰「社会貢献賞」を受賞

【平成 28 年度】

- (76) H28. 4. 1 鳥取大学社会貢献課における日南町職員の派遣研修（佐伯主事）
 (77) 5. 14 「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
 (78) 7. 6 第 1 回WG会議 ～H29. 3. 5 第 3 回WG会議
 (79) 7. 20 鳥取大学公開講座 平成 28 年度「にちなん町民大学」開校～翌 29. 3 計 3 回開催
 (80) 6. 29 地域学部「地域学入門」にて、佐伯派遣職員が鳥大と日南町の連携について説明
 (81) 8. 1 阿毘縁解脱時にて、前鳥取大学長の能勢隆之先生が「健康幸福寿命」について講演
 (82) 9. 12 第 3 回放置財研究会を開催（鳥取県庁にて）
 (83) 10. 23 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室 2016（10 年目）
 (84) 11. 5 秋の図書館祭りに併せ「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
 (85) 11. 10 地域学部「地域就業論」にて、日南町古川主事が「公務員として地域で働くこと」について講演
 (86) 12. 12 阿毘縁お墓山にて、農学部学生が樹木銘板を設置
 (87) 12. 18 大宮で現地報告会を開催（大宮まちづくり協議会／地域学部福田教授、筒井准教授との連携）
 (88) H29. 3. 5 連携事業成果報告会（日南町総合文化センターにて）

【平成 29 年度】

- (89) H29. 4. 1 鳥取大学社会貢献推進課における日南町職員の派遣研修（佐伯主事（2年目））
- (90) 5. 13 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（田植え）
- (91) 5. 15 インターンシップ受入（～5.19 農学部学生 1名）
- (92) 7. 13 第1回WG会議～H29.3.3第3回WG会議
- (93) 8. 5 日野川水系における水質調査報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- (94) 8. 9 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (95) 8. 28 インターンシップ受入（～10.30 農学部学生 3名）
- (96) 9. 15 地方創生政策体験学習を実施（9.15～17までの3日間、日南町地内にて）
- (97) 10. 22 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2017（11年目）
- (98) 12. 9 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井准教授との連携）
- (99) H30. 1. 28 「ITSセミナーin鳥取」にて、企画課出口室長、西田主幹が町の取組みを報告
（東京大学次世代モビリティセンター主催／鳥取大学共催）
- (100) 3. 3 連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）
- (101) 3. 23 大宮で現地報告会を開催（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井准教授との連携）

【平成 30 年度】

- (102) H30. 4. 1 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室における日南町職員の派遣研修（牧主事）
- (103) 5. 8 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（にちなんめしふえず）
- (104) 7. 5 第1回WG会議～H30.3.2第2回WG会議
- (105) 8. 10 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (106) 8. 25 地方創生政策体験学習を実施（8.25～28までの4日間、日南町地内にて）
- (107) 10. 28 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2018（12年目）
- (108) 12. 15 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井教授との連携）
- (109) 1. 10 日南町民大学で「日南町の多様な地質から読み解く地球の歴史」と題して講演
（農学部生命環境農学科菅森講師）
- (110) 3. 2 連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）

【令和元（平成 31）年度】

- (111) H31. 4. 1 鳥取大学地域価値創造研究教育機構企画管理室における日南町職員の派遣研修（牧主事（2年目））
- (112) R 1. 5. 8 「とっとり暮らし早期体験学習」にて、学生が日南町での体験活動（にちなん中国山地林業アカデミー）
- (113) 7. 1 日通共生の森10周年記念事業生態系調査（7/8、13、8/22、9/17、10/25）
- (114) 7. 16 第1回WG会議～R2.2.29第3回WG会議
- (115) 8. 7 鳥取大学の学生を招き「国際理解講座」を開催（日南町総合文化センターにて）
- (116) 9. 3 地方創生政策体験学習を実施（9.3～6までの4日間、日南町地内にて）
- (117) 10. 6 町制60周年記念式典のアトラクションコーナーにて、鳥取大学ジャズ&フュージョン研究会が演奏
- (118) 10. 20 にちなん日和2019にて、鳥取大学吹奏楽団ウインドアンサンブルが演奏
- (119) 10. 27 にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室2019（13年目）
- (120) R 2. 1. 10 地域学部学生と大宮まち協によるまちづくり塾「ぎばんで」を開催
（大宮まちづくり協議会／地域学部筒井教授との連携）
- (121) 2. 29 連携事業成果報告会を開催（日南町総合文化センターにて）→新型コロナウイルスの影響で中止
- (122) 3. 24 日南町民大学で「鳥取県指定天然記念物に指定される「日南町神福のサクラソウ群落」と題して講演
（農学部生命環境農学科永松教授）
→新型コロナウイルスの影響で延期



—発行—

鳥取大学・日南町

ワーキンググループ会議

事務局：日南町役場 企画課